地域鉄道を活用した
地域参画型観光コンテンツの造成による
地域の振興に関する
調査・検証業務

平成 30 年 3 月

ランドブレイン株式会社

内容

序章　はじめに..... 1
1．はじめに..... 1
（1）業務の目的..... 1
（2）業務の構成..... 1
第１章　地域鉄道を活用した事例調査..... 2
1．地域鉄道の現状..... 2
（1）地域鉄道事業者の営業損益..... 2
（2）地域鉄道のポジショニング..... 3
（3）「乗って守ろう」の限界に達しつつある地域鉄道..... 3
2．事例の収集と調査対象の抽出..... 4
（1）調査概要..... 4
（2）調査方法..... 4
3．事例調査結果（事例カルテ）..... 10
4．事例調査に基づく地域振興のポイントの整理..... 22
（1）地域振興のポイントの整理..... 22
第２章　地域鉄道をモデルとした実証・効果検証..... 25
1．実証実験の概要..... 25
（1）概要..... 25
2．平成筑豊鉄道×フォトツーリズムの実施結果..... 26
（1）概要..... 26
（2）実施の様子..... 27
（3）当日実施レポート..... 28
（4）参加者アンケートの結果..... 30
（5）鉄道事業者ヒアリング..... 35
（6）実施結果..... 36
3．平成筑豊鉄道×インバウンドの実施結果..... 37
（1）概要..... 37
（2）実施の様子..... 38
（3）参加者のレポート..... 39
（4）プレスリリース用資料..... 45
（5）実施結果..... 46
4．甘木鉄道×婚活イベントの実施結果..... 47
（1）概要..... 47
（2）実施の様子..... 49
（3）当日実施レポート..... 50
（4）参加者アンケートの結果..... 51

（５）実施結果 56
５．甘木鉄道×インバウンドの実施結果 57
（１）概要 57
（２）実施の様子 59
（３）参加者配布用のツアー行程表 60
（４）ツアーレポート 62
（５）参加者アンケートの結果 68
（６）実施結果 72
６．実証実験の効果検証 73
（１）4 事業の結果とりまとめ 73
（２）実証・効果検証により得られた知見 75
第３章　今後の課題整理と展開について 76
１．今後の課題の整理 76
２．事業主体別の取組み例について 77
３．今後の施策展開について 77
４．地域が豊かになる鉄道との関わり方について 79

序章　はじめに

１．はじめに

（１）業務の目的

九州には第３セクターをはじめとした地域鉄道が多数存在しており、日々、地域の方々の通勤通学や外出等に利用されている。また最近では、観光に特化した車両の導入等による来訪者増加策も積極的に行われている。

他方、全国的にも人口減少・高齢化が進んでおり、九州の地域鉄道においても利用者が減少傾向にある。今後もその傾向が続くと予想される中、持続可能な地域鉄道のあり方については、事業者・行政・地域それぞれにとって、大きな課題となっている。

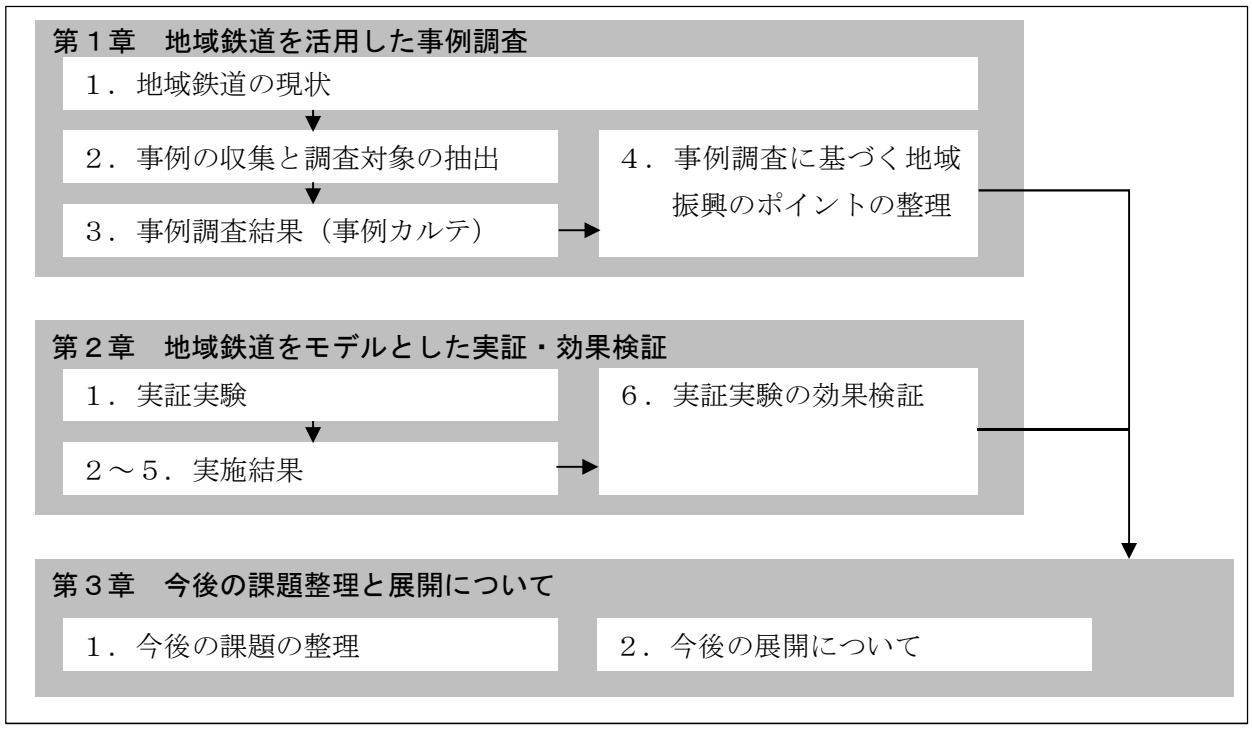
来訪者増加の取組みとして、観光列車の導入は多額の費用を要し、投資に見合う効果が得られない場合もある。一方で、地域が主体となってイベントの開催や来訪者のおもてなしをするなどの取組みも実施されている。地域鉄道が単なる交通手段の域を超えて、地域の観光コンテンツとして積極的に活用されることは、地域振興、魅力創造のツールとしての可能性があると評価される。

本業務は、地域鉄道を活用した地域参画型の観光活性化の取組みと九州における事例について、調査分析・課題を整理するとともに、九州内の複数地域を選定し、その取組みの実証・効果検証を行い、地域の魅力創造の観点から地域参画型の観光コンテンツのあり方について提案することを目的とする。

（２）業務の構成

本業務は、インターネット、アンケート等による地域鉄道を活用した事例調査、及び実際の地域鉄道をモデルとした実証・効果検証の結果から、地域振興のポイントを把握し、今度の課題と施策等の展開について検討を行う。

■実施フロー



第１章　地域鉄道を活用した事例調査

１．地域鉄道の現状

（１）地域鉄道事業者の営業損益

九州内には地域鉄道事業者が 10 社あり、全ての事業者が鉄軌道業では赤字となっている。鉄軌道業外の営業収益をあげることで、黒字化しているのは長崎電気軌道、筑豊電気鉄道、熊本電気鉄道の 3 社のみである。

具体的には、長崎電気軌道は、総合広告代理業・不動産業・ガレージ業・長崎西洋館（複合商業ビル）の運営等の事業を行っている。筑豊電気鉄道は、不動産（テナント）賃貸業・駐車場管理業・交通広告業等の事業を行っている。熊本電気鉄道は、自動車業・不動産業を行っている。

こうした状態は JR 九州においても同様で、鉄軌道事業は赤字だが、鉄軌道業外の収入で黒字化している。

○地域鉄道とは、
一般的に、新幹線、在来幹線、都市鉄道に該当する路線以外の鉄道路線のことをいい、その運営主体は中小民鉄並びに JR、一部の大手民鉄、中小民鉄及び旧国鉄の特定地方交通線や整備新幹線の並行在来線などを引き継いだ第三セクターである。これらのうち、中小民鉄及び第三セクターを合わせて地域鉄道事業者と呼んでおり、平成 29 年 4 月 1 日現在で 96 社となっている。

■地域鉄道事業者の営業損益

（単位：千円）

No.	鉄道事業者	鉄軌道業		鉄軌道業外	営業損益（全体）
		営業収益	営業損益	営業収益	
①	長崎電気軌道	1,806,274	−44,286	428,084	23,684
②	甘木鉄道	222,473	−3,621	44	−3,583
③	筑豊電気鉄道	947,408	−47,123	132,485	53,462
④	島原鉄道	521,516	−115,853	533,767	−55,041
⑤	熊本電気鉄道	320,597	−41,457	53,322	106,258
⑥	南阿蘇鉄道	115,846	−15,913	1,105	−14,908
⑦	松浦鉄道	733,610	−116,692	0	−116,692
⑧	平成筑豊鉄道	334,559	−129,219	0	−129,219
⑨	くま川鉄道	125,006	−89,127	21,244	−70,609
⑩	肥薩おれんじ鉄道	1,380,935	−600,929	0	−600,929

資料：国土交通省　鉄道統計年報（平成 27 年）

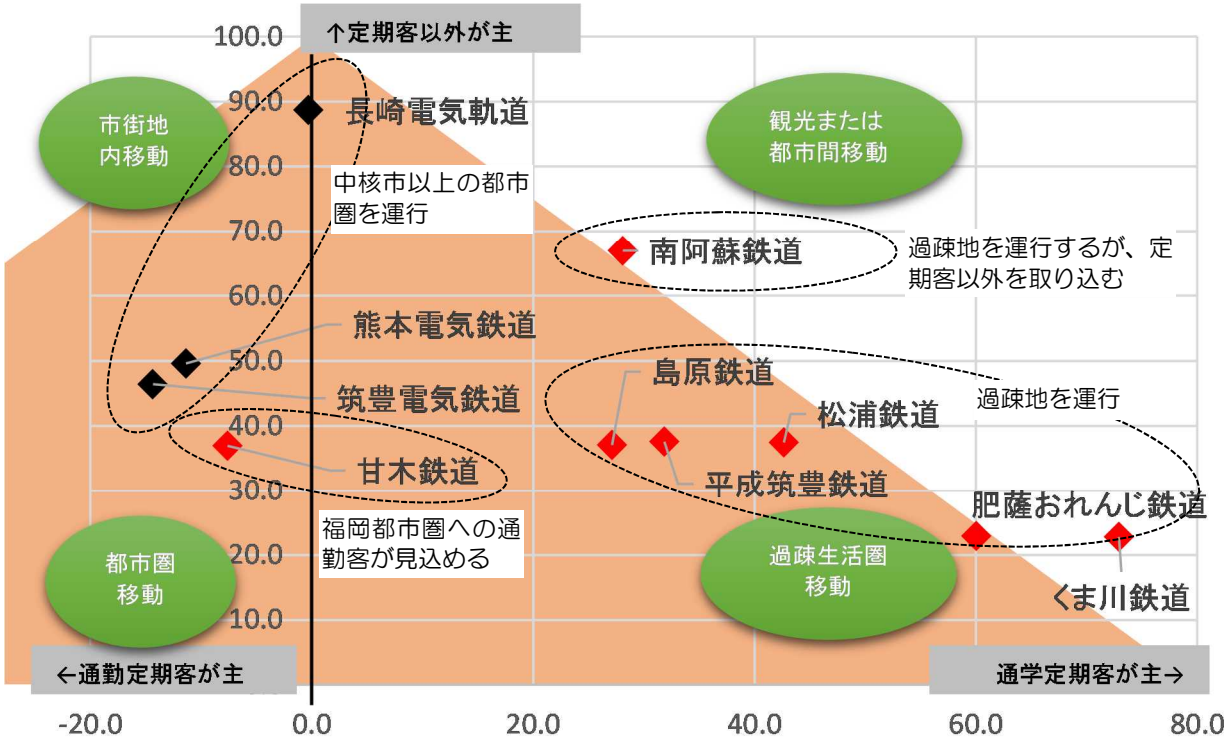
（２）地域鉄道のポジショニング

通勤定期客、通学定期客、定期客以外の客数から地域鉄道 10 社のポジショニングを整理すると以下のようになる。

通勤定期客の多い、長崎電気軌道、熊本電気鉄道、筑豊電気鉄道はそれぞれ、長崎市、熊本市、北九州市という中核市以上の都心部を運行する路線であり、定期客以外の利用も見込める路線である。都心部であるため、不動産業等の鉄軌動業以外の事業も行いやすい路線である。甘木鉄道は上記の 3 路線と異なり、通勤定期客が多く、福岡市などの都市圏移動の役割を担う路線である。南阿蘇鉄道は他の地域鉄道と比較して、定期客以外の利用も多く、観光の利用が多く見込まれる路線である。

その他の島原鉄道、平成筑豊鉄道、松浦鉄道、肥薩おれんじ鉄道、くま川鉄道は、通学定期客が多く、過疎生活圏の移動が主となっている。

■地域鉄道のポジショニング



資料：国土交通省　鉄道統計年報（平成 26 年）をもとに作成

（３）「乗って守ろう」の限界に達しつつある地域鉄道

こうした鉄軌道事業の赤字化の背景には、沿線の人口減少による利用者の減少、それに伴う減便と利便性の低下、自動車利用の増加など様々な要因があると考えられる。こうした状況を背景に抱える地域鉄道には、住民の「乗って守ろう」の限界に達しており、住民の移動手段の域を超え、新たな役割を担うことが必要である。

また、通学定期客の多い路線は、高校生や高齢者等の交通弱者が主な利用者となっており、少子化の進行に合わせて将来にわたって鉄道利用者が減少することは確実視される。そのため地域鉄道の存続には、新たな顧客の獲得が必須となる。

こうした状況から、定期客以外の利用者を獲得するためには、鉄道や沿線資源を活用し、乗車する理由を生み出すこと、鉄道の観光利用は有効な方策であると考えられる。

２．事例の収集と調査対象の抽出

（１）調査概要

全国の地域鉄道において行われている地域参画型の観光コンテンツによる地域の振興の取組みについて調査を行った。調査の対象は、**地域特性が九州の地域鉄道と類似している事例**、また、**九州の地域鉄道においても取組みやすい費用感**である事例の絞り込みを行った。

（２）調査方法

①既往情報調査

全国の地域鉄道において行われている地域参画型の観光コンテンツによる地域の振興の取組みについて調査を行った。全国の事例を、活用タイプ別(車両活用タイプ、駅舎活用タイプ、地域連携タイプ)に分類を行い、それぞれのタイプ別に調査を行った。

■既往情報の調査実施概要

調査概要	■対象：事業取組主体［鉄道事業者（JR 路線等含む)・地域団体等］ ■調査時期：2 月上旬 ■調査方法：インターネットを用いた 3 タイプ別事例調査

全国の地域鉄道において行われている地域参画型の観光コンテンツによる地域の振興の取組みは活用タイプ別に下記の様な事例がある。

■車両活用タイプ

車両活用タイプ	
●クリスマス★はぴトレ(くま川鉄道) ●おれんじ食堂（肥薩おれんじ鉄道） ●レンタル列車（松浦鉄道） ●ビール列車（松浦鉄道） ●おでん電車(長崎電気軌道) ●留め置きマルシェ（水間鉄道） ●お箸 DE イタリアン（いすみ鉄道） ●舞妓ランチ・カフェ列車(長良川鉄道)	●地域情報発信列車「ながまれ号」(道南いさりび鉄道) ●夜景列車　いさりび鉄道（道南いさりび鉄道） ●超低速スノータートル in 雪国（北越急行） ●認知症予防講座（甘木鉄道） ●列車運転試乗体験（平成筑豊鉄道） ●コロプラ×熊本電鉄(熊本電気鉄道)

■駅舎活用タイプ

駅舎活用タイプ	
●カープ油津駅（JR 日南線） ●山で牡蠣まつり(平成筑豊鉄道) ●JR えびの駅での駅前広場のビアガーデン・今昔写真展（JR 吉都線） ●ねこ駅長（和歌山電鐵貴志川線貴志駅） ●月 1 回マルシェ（ひたちなか海浜鉄道）	●採銅所駅第 2 待合室（JR 日田彦山線） ●リアル桃太郎電鉄長崎編(長崎電気軌道) ●由布院駅アートホール（JR） ●駅舎温泉（長良川鉄道） ●まち愛カフェ（水間鉄道）

■地域連携タイプ

地域連携タイプ	
●図書館との連携(富山地方鉄道) ●大学合格祈願切符、ツアー企画販売（松浦鉄道） ●ちくてつ電車祭り(筑豊電気鉄道) ●はぴねすマルシェ(くま川鉄道) ●幸せの黄色い列車王国(島原鉄道) ●観光施設との連携（由利高原鉄道） ●イルミネーション（わたらせ渓谷鉄道）	●中高生のお出かけ割（津軽鉄道） ●サイクルトレイン（土佐くろしお鉄道） ●地元高校との共同企画（津軽鉄道） ●映画「RAILWAYS」特集　一畑電車でなつかしの風景を旅する（一畑電車） ●甘木鉄道を育てる会(甘木鉄道)

上記の 3 タイプ別で、地域特性が九州の地域鉄道と類似している事例、また、九州の地域鉄道においても取組みやすい費用感の事例を 4 件ずつ抽出した。

■3 タイプ別分類と 4 事例

車両活用タイプ	駅舎活用タイプ	地域連携タイプ
●列車運転試乗体験（平成筑豊鉄道） ●留め置きマルシェ（水間鉄道） ●地域情報発信列車「ながまれ号」（道南いさりび鉄道） ●舞妓ランチ・カフェ列車（長良川鉄道）	●カープ油津駅（JR 日南線） ●JR えびの駅での駅前広場のビアガーデン・今昔写真展（JR 吉都線） ●採銅所駅第 2 待合室（JR 日田彦山線） ●まち愛カフェ（水間鉄道）	●イルミネーション（わたらせ渓谷鉄道） ●サイクルトレイン（土佐くろしお鉄道） ●映画「RAILWAYS」特集　一畑電車でなつかしの風景を旅する（一畑電車） ●甘木鉄道を育てる会（甘木鉄道）

②アンケート調査

インターネット調査を行った 12 事例に対して、アンケート調査を行った。また、アンケート調査で不足する情報については、追加で電話での聞き取り調査を行った。

アンケート調査と追加の電話での聞き取り調査の内容をカルテ形式にまとめを行った。

■実施概要

調査概要	■対象：事業取組主体［鉄道事業者（JR 路線等含む）地域団体等］ ■調査時期：2 月下旬～3 月上旬 ■調査方法：アンケート(補助的に電話での聞き取り調査を行った) ■回収サンプル数：12 サンプル（3 タイプ別分類×4 事例）
共通調査項目	・事業概要 ・取組みを始めたきっかけ ・取組みの目的 ・実施体制 ・取組みの発案者 ・取組みの実施にあたり連携した者 ・取組みにかかった費用 ・取組みの収支 ・公的な支援を受けているか ・取組み継続のためのポイント

■アンケート用紙（1/3）

地域鉄道における地域と連携した活性化の取り組みについてのアンケート

御社	の	取り組み名	について

お尋ねします。

問１．ＨＰ等の情報をまとめた以下の事業概要につきまして、修正すべき点や補足すべき点がございましたら下欄にご記入ください。

（事業概要）

（修正等）

上記の取り組みのきっかけ、動機についておたずねします。

問２．取り組みをはじめたきっかけ、動機を教えてください。

問３．取り組みの目的を教えてください。

■アンケート用紙（2/3）

実施体制についておたずねします。

問４．取り組みの発案者は次のうち誰ですか。また具体の名称を教えてください。（あてはまるもの一つに〇）

１．鉄道事業者
２．住民団体（自治会、ＮＰＯ、任意団体等）
３．住民個人
４．行政（国、都道府県、市町村など）
５．特定の企業、事業者
６．その他

具体の名称（〇〇自治会など）

問５．取り組みの実施にあたって連携した者を教えてください。また、どのような関係でしたか。
（連携した者：行政（都道府県）、行政（市町村）、行政（国）、地元住民の方々、旅行業者、他の交通事業者、地域商工会、ＤＭＯ、ＮＰＯ法人、他）

連携した者	関係内容
例）　●●●●●●株式会社	・〇〇イベントの企画、食材の提供、イベントの周知
実施主体（主催者）	
連携した者①	
連携した者②	
連携した者③	

取り組みにかかった費用等についておたずねします。

問６．取り組みの事業規模はいくらでしたか。

おおむね［　　］あたり［　　］万円くらい
１回、１年など

問７．取り組みの結果収支はいかがでしたか。（あてはまるもの一つに〇）

１．予算額を上回る収入があった　　２．予算額と同程度の収入があった
３．収入はあったが予算額を下回った　　４．ほとんど収入はなかった
５．わからない

問８．取り組みの実施にあたって、公的な支援を受けていますか。（あてはまるもの全てに〇）

１．補助金等の予算措置　２．制度整備　３．関係者との調整等　４．会議の場所の提供等
５．取り組みの周知等　６．取り組み時の人的支援等　５．その他（　　）

■アンケート用紙（3/3）

取り組みの継続についておたずねします。

問９．取り組みは現在も続いていますか。（あてはまるもの一つに○）

１．続いている　　２．同じではないが別の形で続いている　　３．続いていない

問９で１または２と回答した方

問 10. 続いている理由を教えてください。
（あてはまるもの全てに○）

１．鉄道の利用者が増えた
２．取り組みによる収入が十分にある
３．地域貢献のため
４．団体、企業等が自主的に行っているため
５．その他（　　）

問９で３と回答した方

問 11. 続いていない理由を教えてください。
（あてはまるもの全てに○）

１．継続の予定がなかった
２．思ったよりも労力がかかった
３．想定した収益が得られなかった
４．企画の参加者が少なかった
５．その他（　　）

問 12. 取り組みを継続していくために重要だと感じているポイントは何ですか。

問 13. 取り組みの内容について、電話にて補足調査を行わせていただく場合があります。ご担当者とご連絡先をご記入ください。

ご担当者氏名	
ご連絡先 電話番号	

ご協力ありがとうございました。**平成３０年３月２日（金）**までに本事業の委託業者であるランドブレイン株式会社まで FAX またはメールにてご返信下さい。

ランドブレイン株式会社（福岡事務所）
FAX: 092-714-1437　　e-mail: mizuyo_sako@landbrains.co.jp
お問い合わせ電話番号: 092-714-4768

３．事例調査結果（事例カルテ）

■列車運転試乗体験

取組みタイトル	列車運転試乗体験
事業主体	平成筑豊鉄道
URL	http://www.heichiku.net/railway/untentaiken/
事業概要	・ 9年前より平成筑豊鉄道「なのはな号」を活用した試乗体験を実施 ・ 6月・10月（鉄道の日：10月14日）・11月で実施 ・ 鉄道指令室の見学や車両基地や車両見学、運転体験を行っており、運転体験に際しては、運転に必要な機器の取り扱い説明等の事前講習を行っている ・ 金田駅車両基地内の約150mの体験専用線路の往復を運転体験することができる（全国でもこの距離を体験できるのは、平成筑豊鉄道くらい）
事業を始めるにあたってのきっかけ（動機）	・ 廃棄車両を活用するため
事業の目的	・ 試乗体験を長距離（往復約300m）区間で実施している鉄道事業者が少なく、域外から平成筑豊鉄道を知り、乗ってもらうことのできる機会づくりを図るため
地域の協力体制（行政、企業、民間団体等）	・ 福智町（ふるさと納税サイトでの情報発信） ・ 九州運輸局（「鉄道の日」における列車運転体験の企画募集）
事業規模、収支	・ 1年あたり100万円程度 ・ 支出内訳：体験試乗用線路の点検・整備費、油代（鉄道運行に係る）、人件費（3名が必要要員） ・ 収入　　：1回あたり15万円程度（5,000円/人 × 30名/回）
今後の課題及び継続していく際のポイント	・ 本物の列車を運行するための安全確保の徹底 ・ 古い車両の保守点検、線路整備費、実施要員の人件費を補うことのできる収入の確保 ・ イベントのターゲットの絞り込みと、そのターゲットに響く価値の提供（企画の検討） ・ イベントの実施目的の明確化（収入確保のためだけではなく、鉄道自体のPR、CSR等に価値を見出せるか） ・ イベント自体のPDCAサイクルの実施（イベントを実施した後に、問題・課題を設定し、ターゲットや企画内容等を見直す）
事業効果（地域への経済効果含む）	・ 関西、中京圏を中心に、専門学校（鉄道、旅行関係）等の団体客が広く参加しており、普段の利用者以外のコアターゲットに訴求できている ・ 予算額（1年あたり100万円）を超える収入を得ることができた
まとめ	・ 廃棄車両を活用する取組みであるため、初期投資が抑えられる ・ 情報発信を担う協力体制を構築している ・ 鉄道指令室の見学や運転体験など有力なコンテンツがあるため、支出に見合う参加料を取ることができる ・ 「鉄道」×「運転体験」というコアなターゲットに訴求できる企画となっている ・ ターゲットの変化に伴い企画を見直ししており、この事業内でPDCAサイクルを回すことができている ・ 予算額を超える収入を得ることができた

■留め置きマルシェ

取組みタイトル	留め置きマルシェ
事業主体	水間鉄道
URL	http://www.suitetsu.com/index.html
事業概要	・ 2011年4月から、原則毎月第1・第3日曜日、水間観音駅で開催 ・ 当日の営業運転に使用されない車両2両をホームに留め置きして、マルシェスペースに活用 ・ 市内の生産者が気軽に参加 ・ 生産者以外にも、がん患者支援や女性がん検診啓発に取組む社会貢献活動をアピールしたり、手芸作品の販売も展開 ・ 2017年11月19日で終了
事業を始めるにあたってのきっかけ（動機）	・ 地元から賑わいを創出するため、イベントを開催してほしいという要望がありスタート ・ 駅舎構内が手狭でイベントスペースが確保しにくかったため、営業運転に使用されていない車両2両を活用して実施
事業の目的	・ 乗客数の増加、地域活性化
地域の協力体制（行政、企業、民間団体等）	・ 水間鉄道株式会社
事業規模、収支	・ 基本的に電気代のみの支出（マルシェの売上は出店者に100%、鉄道事業者には場所代（1区画500円）が収益として入る）
今後の課題及び継続していく際のポイント	・ マルシェ事業は、想定した収益が上がらなかったため2017年11月19日で終了（地元事業者は、通常営業の支障となることもあり、活動の継続が難しくなった） ・ 一方、マルシェ継続の要望がある（運営体制等を再検討中） ・ 地域の特徴、田舎の特徴を活かしたアイデアで、事業展開することが重要 ・ マルシェに来る人は、基本的に沿線居住者であり、鉄道ファン等の来訪はあまり見られなかった ・ 地元の方や車で来る人が多く、運賃収入を得ることができなかった ・ このため、収益が厳しかった
事業効果（地域への経済効果含む）	・ 沿線住民や地元事業者（パン屋、雑貨屋等）が鉄道に触れるきっかけになった
まとめ	・ 遊休している車両を活用しているため、初期投資が抑えられている ・ 出展者から500円/1区画の収入を得られているが、支出を賄えるほどの収入になっておらず赤字である ・ マルシェに来る人は沿線居住者であるため、鉄道利用を促進する取組みにならなかった ・ 沿線住民や地元事業者が鉄道に触れるきっかけになった

■舞妓ランチ・カフェ列車

取組みタイトル	舞妓ランチ・カフェ列車
事業主体	株式会社長良川鉄道
URL	http://www.nagatetsu.co.jp/
事業概要	・ 清流長良川沿いを走る観光列車「ながら」と岐阜の美しい文化や技の数々をつなぐ岐阜舞妓のおもてなしと、全国で数名しかいない幇間(男芸者）の技が楽しめる異次元の体験ができる豪華企画 ・ コンセプトは、以下の①～③の通り ・ ①「一見さんお断り」なんて申しません！長良川沿いの花街文化をお気軽に ・ ②目で・耳で・舌で味わう、ご当地文化 ・ ③郡上八幡の文化をまち歩きのプロフェッショナルと一緒に ・ 行き帰りの電車の中では岐阜県産食材にこだわった懐石弁当、沿線の和菓子とお茶を提供 ・ 各所で、舞妓の衣装の説明、舞やお遊びなど、お座敷文化を披露し、風情を味わい、各席に舞妓が挨拶し、写真撮影も自由
事業を始めるにあたってのきっかけ（動機）	・ 岐阜舞妓は、例年5月～10月に開催されている「長良川鵜飼」の先導船で舞を披露している ・ 舞妓をシーズンオフの時期に上手く利用できないかと考え、「和のたたずまいのながらと舞妓」がマッチングすると思い始めた
事業の目的	・ 旅行客が鈍る閑散期（12月～2月）に舞妓列車を運行し、同時に優雅な車内から雪見列車としての魅力と感動を旅行者等の利用者に提供することを目的とする
地域の協力体制 （行政、企業、民間団体等）	・ 【長良川流域観光推進協議会】　広報担当 ・ 【NPO法人ORGAN】　ホームページ告知、ネット予約 ・ 【鳳仙技連】　舞妓・幇間の手配、案内 ・ 【長良川鉄道】　ツアーの運営・調整
事業規模、収支	・ 1年あたり180万円の事業規模。収入も確保できており赤字にはなっていない ・ 行政の補助金措置もあり、事業が黒字化しており、今後も継続予定
今後の課題及び継続していく際のポイント	・ メディア・新聞・雑誌等と連携し、周知徹底させていくことが今後の課題である ・ 知らない潜在的な顧客はあり、新たな顧客の掘り起こしをしながら継続的に実施していく予定である ・ 今後は他の地域資源も取り込み、地域一体となった取り組みへとつながればいい
事業効果 （地域への経済効果含む）	・ 旅行客の閑散期を狙った企画であり鉄道収入、飲食店収入等による地域経済効果はプラスである
まとめ	・ 鉄道と舞妓のオフシーズンに合わせて事業を実施することで、どちらの事業者にとってもwin-winな関係が構築できている ・ 「鉄道」×「岐阜舞妓」という地域資源を活用しおり、ターゲットに訴求できる企画となっている ・ 地域の食材を利用して地域にお金を落とす仕組みになっているため、地域からの協力を得やすい ・ 事業にかかる一連の業務が、協力体制の中で業務分担されている ・ 補助金を得ているため、黒字の収支となっている ・ 鉄道収入・飲食店収入等の経済効果はプラスである

■地域情報発信列車「ながまれ号」

取組みタイトル	地域情報発信列車「ながまれ号」
事業主体	道南いさりび鉄道
URL	http://www.shr-isaribi.jp/nagamare/
事業概要	・ JR北海道より譲り受けたキハ40気動車を2両改装した特別列車。「ながまれ」とは、道南地域の懐かしい方言「ゆっくりして」「のんびりして」の意味 ・ 普段は日常の通勤・通学・買い物等、普段の列車として運行し、観光団体用に車内で食事が楽しめるようなテーブルやヘッドレストを設置した特別仕様列車。旅行会社（株式会社日本旅行）と連携した「ながまれ海峡号ツアー」を定期的に実施
事業を始めるにあたってのきっかけ（動機）	・ 各地で観光列車（先行事例として九州のななつ星）の運行があり、地元自治体などから当社路線でも運行を検討できないかとの意見があり、検討を行ったところ、地元行政（北海道庁）の予算で取組みをはじめた
事業の目的	・ 観光列車の運行を行い、地域に根差した鉄道会社として、車内で「地域の情報発信等」を行うことを目的とする
地域の協力体制 （行政、企業、民間団体等）	・ 【地元行政（北海道庁）】　資金補助 ・ 【旅行会社（株式会社日本旅行）】　企画運営
事業規模、収支	・ 道南いさりび鉄道としては、運行に伴う運賃、料金のみ
今後の課題及び 継続していく際のポイント	・ 開業より観光列車の運行を始めていたが、「企画・募集・手配」の業務の余力がなく、集客は芳しくなかった ・ 今回の事業では「企画・募集・手配」の部分を旅行会社が担うことで可能になった ・ 地元食材の提供など地元事業者等との協力で行っている事業であるため、旅行会社や飲食店、地元事業者との良好な関係を構築することが継続のポイントである
事業効果 （地域への経済効果含む）	・ 地元食材を提供してくれる事業者や飲食関係の売り上げに貢献している ・ 車両自体を見に来る鉄道マニアの効果もあり、実際カメラを構えた利用者が多くなっている
まとめ	・ 改造にかかる費用を行政からの補助金で得ることで確保している ・ 昔の車両を活用することで、車両自体が集客のツールになっており鉄道のコアなファンも引き付けている ・ 地域の食材を利用して地域にお金を落とす仕組みになっているため、地域からの協力を得やすい ・ 苦手分野を担うプレイヤーを地域協力体制の中で構築しており、この事業内でPDCAサイクルを回すことができている ・ 地元食材を提供してくれる事業者や飲食店の経済効果はプラスである

■カープ油津駅

取組みタイトル	カープ油津駅（JR 日南線）
事業主体	日本一のカープ駅をつくる会（任意団体）
URL	http://www.jrkyushu.co.jp/
事業概要	・ 2016年、2017年と2年連続でリーグ優勝した広島東洋カープのキャンプ地である宮崎県日南 ・ カープは日南市で56年間キャンプを張っており、春と秋に練習をする天福球場の最寄り駅である油津駅には、キャンプシーズンになると多くのファンが訪問する ・ カープを応援するファンが中心となり、駅舎のリニューアル（装飾）を行うとともに、周辺商店街と一体となった取組みを展開
事業を始めるにあたってのきっかけ（動機）	・ 2年連続（2016年、2017年）でリーグ優勝するものの、2017年はクライマックスシリーズで敗退 ・ 2018年のシーズンこそ日本一になるべく、キャンプ地日南から何か声援を送れないかと考え、市民やファンの有志の団体を設立し、企画・運営した
事業の目的	・ 日南の地からカープを応援することが主目的であり、副次効果として、JR日南線の利用促進効果も狙う
地域の協力体制（行政、企業、民間団体等）	・ 【JR九州】 駅舎の改修許可 ・ 【民間会社（株式会社サーチフィールド）】 事業コーディネート ・ 【地元観光協会（日南市観光協会）】 告知
事業規模、収支	・ 約500万円
今後の課題及び継続していく際のポイント	・ 任意団体で実施していることもあり、参加メンバーのモチベーション維持が一番大事。ポイントは以下の3点である ・ 「やりたい人がやりたいだけやること（無理に人を巻き込もうとしない）」 ・ 「ステークホルダーの利害設計が上手にできていること」 ・ 「来るもの拒まず、去る者追わず」
事業効果（地域への経済効果含む）	・ カープ油津駅を訪れる観光客や駅利用者は増加している
まとめ	・ クラウドファンディングを活用し改修費用を募っているため、補助金に頼らず自主財源で実施することができた ・ 「カープファンが集まる」地域の特徴をつかんでおり、全国のファンが募金しやすい仕組みを構築しているため、協力を得られやすい体制となっている ・ 「やりたい人がやりたいだけやること」というスタンスで運営しているため、参加メンバーのモチベーションを維持している ・ 「鉄道」×「カープ」という事業をすることで、コアなターゲットに訴求することができる仕組みとなっている ・ 観光客や駅利用者は増加している

■JR えびの駅舎及び駅横広場の活用

取組みタイトル	JR えびの駅舎及び駅横広場の活用
事業主体	ガッツ！かっつ（任意団体）
URL	―
事業概要	・ えびの駅がある中島地区を中心とした市民団体である「ガッツ！かっつ」による企画運営として、JRえびの駅横にある広場（かっつ広場）で8月に納涼ビアガーデンを開催、12月には駅舎イルミネーションを開催している ・ 今後は駅舎を使い、今昔写真展を開催予定である ・ かっつ広場は、もともと藪だらけの場所を自分たちで広場として整備している ・ また、地元の農家と協力して、広場の一部に芋を植えて子ども達と収穫するといった取組みも行っていた
事業を始めるにあたってのきっかけ（動機）	・ JR吉都線開通100周年を3年後に迎えるにあたり、開業の姿をそのまま残す駅舎を大事にしようとの思いで、地域の仲間数名に呼びかけ、地域おこしグループ「ガッツ！かっつ」を立ち上げ、駅を中心に活動を始めた
事業の目的	・ 「地域を楽しくすること」 「住民同士の触れ合いの場をおこすこと」 「子供たちにふるさとの思い出の場を作ること」 が目的である
地域の協力体制（行政、企業、民間団体等）	・ 【地元住民】　作業協力（草刈り、ビヤガーデンの出店等） ・ 【地元行政】　3年間の活動に対する予算措置
事業規模、収支	・ 1年あたり40万円（収支は赤字）
今後の課題及び継続していく際のポイント	・ 地域貢献の視点が一番重要であり、グループメンバーも共に楽しむこと、若い層を巻き込んでいくことが継続のポイントである ・ 運営費を継続的に確保する仕組みは必要である
事業効果（地域への経済効果含む）	・ 地域の方々が喜んでくれること ・ 特に経済的な効果は狙っていない ・ 取組みを通じて仲が良くなり、地域の集う場所、ふれあいの場所になっている ・ 新しい仲間も増えてきたので、何か新しい取組みを始めたいと検討している
まとめ	・ 築100年の木造駅舎を活用しているため、建物が地域のランドマークとなっており、地域に馴染みやすい事業となっている ・ 「地域を楽しくすること」を目的に掲げているため、住民が参加しやすい雰囲気となっており、地域の協力を得やすい ・ 子供にフォーカスをあてた取組みを行っているため、参加者を増やすことに成功している ・ 3年間の予算措置があるため運営に問題はないが、実際は赤字である ・ 新しい仲間が増えたので、新規企画の検討を行っている

■採銅所駅第２待合室

取組みタイトル	採銅所駅第２待合室（JR 日田彦山線）
事業主体	香春町役場
URL	―
事業概要	・ 「ひと」と「くらし」が待ち合わせる新しい場として、100年を超える歴史を持つ採銅所駅を再生した ・ 再生された駅舎は、香春町の移住相談のワンストップ窓口であり、空家を活用した若者移住に取組む地域おこし協力隊の活動や、地元住民と移住希望者など、町外の人との交流の拠点となっている
事業を始めるにあたってのきっかけ（動機）	・ 平成27年11月に策定した「香春町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、「香春町への人の流れをつくる」ための中心的事業として企画立案した
事業の目的	・ 田舎暮らしを希望する都市部の若者をターゲットに、香春町の空家への移住を推進するため、香春町での暮らしの魅力を発信するとともに、移住をトータルにサポートする施設が必要となった ・ 特に地域住民の方々との関係性を構築することを主の目的として、地域のシンボルであり玄関口である鉄道駅を拠点とした
地域の協力体制（行政、企業、民間団体等）	・ 【地元行政】改修計画の立案、改修工事の発注、駅舎に常駐する地域おこし協力隊の導入 ・ 【地元区長会】改修計画に対する意見、駅舎オープン後の運営協力 ・ 【設計会社・施工会社】改修計画の立案ワークショップの運営・デザイン提案、大正時代の建築物につき、困難な改修工事に対する尽力 ・ 【JR九州】工事協力、駅舎の無償譲渡（平成22年）
事業規模、収支	・ 1年1,500万円（改修費）
今後の課題及び継続していく際のポイント	・ 移住相談窓口としての機能があるため、目に見える形となる移住者数の実績確保が今後の課題 ・ 今後運営していく中で、地域住民の理解・協力、地域おこし協力隊などの人材確保は必要
事業効果（地域への経済効果含む）	・ まだ完成してから日数が経っていないが、メディア等への掲載による効果はある ・ 地域の方たちからの地域活性化に対する期待感は感じられる
まとめ	・ 改修費として1,500万円の補助金を受けることでスタートアップ期の資金としている ・ 「鉄道」×「移住相談窓口」という新しい枠組みのため、メディアに取り上げられ認知度が上がってきている ・ 地元自治会や設計事務所など、必要な人脈や技術のある人とチームを構築することに成功している ・ 地域の協力体制を構築して事業を実施しているため、役割が明確になり上手く事業が進んでいる ・ メディアに掲載され認知度が上がっている

■まち愛カフェ

取組みタイトル	まち愛カフェ
事業主体	水間鉄道株式会社
URL	http://www.suitetsu.com/
事業概要	・ 水間観音駅構内に地元おおさか材を多用した“まち愛カフェ”を建築し、ぬくもりのある良質の地域産材の良さをアピール ・ 月曜日～金曜日に貝塚市内の障がい者施設が交代で、まち愛カフェみずかめ庵「和」を営業展開 ・ 月曜日―ほっこりの里（10:00～14:00）、火曜日―せんごくの里（10:00～14：00）、水曜日―みやび作業所（10：30～13：30）、木曜日―らぱん （11：00～16：00）、 金曜日―ガマダシモン（10：00～14：30） ・ 12月には駅舎イルミネーションも実施中 ・ 2018年3月でカフェは終了予定
事業を始めるにあたってのきっかけ（動機）	・ 地元おおさか材を多用し、ぬくもりのある良質の地元産材の良さをPRする ・ 貝塚市役所から障がい者サービス事業所の紹介があり、障がい者の就労の場としての活用の提案を受けた
事業の目的	・ 休憩、飲食場所を提供し、地域住民のコミュニティの場所として利用する。地域活性化にも寄与する
地域の協力体制（行政、企業、民間団体等）	・ 【地元行政（大阪府環境農林水産部）】 資金の提供 ・ 【施工会社（カメヤグローバル株式会社）】 設計、施工
事業規模、収支	・ 毎月の施設の維持管理費（水光熱費）
今後の課題及び継続していく際のポイント	・ 今後のまち愛カフェと駅全体の運営方法を検討中
事業効果（地域への経済効果含む）	・ 障がい者の就労の場としての活用（地域貢献活動）
まとめ	・ 「駅舎」×「障がい者の就労の場」という枠組みで、雇用を創出している ・ 地元おおさか材を利用することで、ぬくもりのある施設にするとともに、地域産材のアピールの場にもなっている ・ 地域貢献活動(CSR)

■甘木鉄道を盛り上げる仕組み

取組みタイトル	甘木鉄道を盛り上げる仕組み
事業主体	甘木鉄道を育てる会
URL	http://www.amatetsu.jp/
事業概要	・ 甘木鉄道関係地域の産業、経済の振興及び住民福祉の発展を願って、甘木鉄道の長期的な安定経営の推進に寄与することを目的として「甘木鉄道を育てる会」を設立した ・ 任意団体であり、甘木鉄道及び沿線情報の発信やJRウォーキング、音楽祭などの広報活動イベントを実施している ・ 七夕列車、コスモス列車、クリスマス列車などの運行支援や門松制作、清掃活動、甘木鉄道が行う乗降調査の支援なども実施している
事業を始めるにあたってのきっかけ（動機）	・ 甘木鉄道の現状と課題を整理し、「甘木鉄道を育てる会　活性化戦略プラン」に基づき、様々な事業に取組んでいる
事業の目的	・ 甘木鉄道を育てる会会則である、甘木鉄道及び関係地域が活性化し、甘木鉄道の長期的な安定経営の推進することを目的としている
地域の協力体制 （行政、企業、民間団体等）	・ 【基山Kappo実行委員会】Kappo列車運行、列車運行の企画、日本酒の提供、イベントの周知 ・ 【民間会社（キリンビール福岡工場）】甘鉄音楽祭の開催、会場の無償提供、協賛品の提供 ・ 【沿線高校（三井高校）】たなばた列車の装飾、列車及び駅のたなばた装飾の協力
事業規模、収支	・ 1回5～10万円
今後の課題及び継続していく際のポイント	・ 沿線地域（住民、団体）の協力
事業効果 （地域への経済効果含む）	・ ウォーキングを行うと数百人単位で人が来るので、地域の商店などにお金が落ちていると感じている ・ お土産に地域のお菓子屋などを使って、地域にお金が落ちるようにしている
まとめ	・ 甘木鉄道を地域の資産としてとらえ、会が主体となりイベントの企画を行っているため、同じ視点の地域協力者からの協力が得られている ・ 「活性化戦略プラン」を作成し、事業に取組んでいるため、地域協力者のなかで同じ目標を共有することができている ・ 地域事業者や飲食店の経済効果はプラスである

■アクティブスポーツのトレイン利用による高知の魅力発信

取組みタイトル	アクティブスポーツのトレイン利用による高知の魅力発信
事業主体	土佐くろしお鉄道
URL	http://www.tosakuro.com/
事業概要	・ 年2～3回臨時列車または定期列車の増結車両で、サイクルトレインとして運行 ・ 自転車を折りたたまずに列車に載せることができることが特徴である ・ 乗降できる列車、駅（窪川駅、土佐入野駅、中村駅）が決められている。事前予約制で実施しており、自転車積み込みによる追加料金はなし ・ 2014年で一旦終了
事業を始めるにあたってのきっかけ（動機）	・ 四万十をはじめとした高知の魅力を発信する事業の一環として、サイクリストに利便を提供し、交流人口を増やし地域活性化の一助とする事業として実施
事業の目的	・ アクティブスポーツを通じた高知県の魅力発信を主軸に、くろしお鉄道の利用促進を目的とする
地域の協力体制 （行政、企業、民間団体等）	・ 【地元民間企業（Laundry Japan　※現在は廃業）】企画、運営 ・ ※Laundry Japan…サイクリングや子供サイクリング（ランニングバイクの普及）等のアクティブスポーツを通じて四万十をはじめとした高知県の魅力を発信する団体
事業規模、収支	・ 土佐くろしお鉄道の支出はなし ・ 地元民間企業の資金により実施
今後の課題及び 継続していく際のポイント	・ 地元民間団体の企画により、サイクルトレインとして事業展開してきた ・ メディア掲載等による宣伝効果はあった ・ サイクリストの中には車で起点地まで来る人もおり、もっと違う仕掛けが必要だった ・ 事業を継続していくためには収支バランスが大事であり、赤字にならない規模での実施が大事
事業効果 （地域への経済効果含む）	・ 高知県外からサイクリストが訪問し、高知の魅力を体験してもらうことはできた
まとめ	・ 「鉄道」×「自転車」の企画とすることで、コアなターゲットに訴求できる企画となっている ・ 参加者は車で起点地まで来る人もおり、電車の利用促進につながらなかったため、電車と他の交通を組み合わせた仕組み作りが必要 ・ 事業継続のためには、赤字にならない規模での実施は必要

■鉄道駅及び沿線のイルミネーション実施による魅力向上の仕組み

取組みタイトル	鉄道駅及び沿線のイルミネーション実施による魅力向上の仕組み
事業主体	わたらせ渓谷鐵道株式会社
URL	http://www.watetsu.com/
事業概要	・ 冬の乗客が減る冬季の鉄道を盛り上げるために開催したのが発端 ・ 各駅の近隣住民が主体となって、最寄り駅のイルミネーションを行う ・ 鉄道社員も周辺の住民が少ない1駅を受け持ち、参加している ・ 実行委員会を立ち上げ、寄付等を募っており、地元の中学校、企業、ロータリークラブ等の協賛も得ている ・ 2004年から今回（2017～18年）で14回目 ・ 12月～翌年2月までの3ヶ月間実施。3ヶ月間、わたらせ渓谷鐵道はイルミネーションツアーを実施（約1,000名が参加）
事業を始めるにあたってのきっかけ（動機）	・ 冬の乗客が減る冬季の鉄道を盛り上げるために開催
事業の目的	・ 同上
地域の協力体制 （行政、企業、民間団体等）	・ 【わたらせ渓谷鐵道各駅イルミネーション事業実行委員会：（わたらせ渓谷鐵道市民協議会が母体）】イベント企画（各駅持ち回りで実施する点灯式等）、PRはわたらせ渓谷鐵道が主体で行う ・ 【沿線中学校】飾り付け ・ 【地元企業】飾り付け、寄付 ・ 【ロータリークラブ】飾り付け
事業規模、収支	・ 1年1回あたり100万円
今後の課題及び 継続していく際のポイント	・ 14年継続している事業であるが、参加者の高齢化問題もある ・ 「参加者のモチベーションを保つ方法」「地域住民の協力を得るための取組み」が今後の課題となっている ・ 地元行政の予算措置あり
事業効果 （地域への経済効果含む）	・ 14回目を迎え、毎年恒例のイベントとして定着している ・ 3ヶ月間に約1,000名が参加する ・ 沿線事業者がLEDライトを提供たり、寄付金を集めたり、地元中学校や住民の協力があり、地域一体となった取組みになっている
まとめ	・ 旅行者のシーズンオフに合わせて企画を実施することで、乗客数の底上げを図っている ・ 地元企業から協賛を受けて運営を行っている ・ 鉄道社員や地元住民が協力して、地元の駅の飾りつけを行っている

■RAILWAYS 49歳で電車の運転士になった男の物語のロケ地めぐり

取組みタイトル	RAILWAYS 49歳で電車の運転士になった男の物語のロケ地めぐり
事業主体	島根県観光連盟
URL	https://www.ichibata.co.jp/railway/
事業概要	・ 一畑電車を舞台とした「RAILWAYS 49歳で電車の運転士になった男の物語（錦織良成監督）」の撮影場所やそれ以外の旅スポットをホームページ、パンフレット等で公益法人島根県観光連盟と連携した情報発信を実施 ・ 民間会社（株式会社日本旅行）の企画で首都圏・中部圏・西日本・九州からの1泊2日の企画ツアーを実施 ・ 参加特典として、一畑電車1日フリー乗車券や一畑電車雲州平田駅構内の特別見学、プルバック「デハニ50形」を特別価格で販売している
事業を始めるにあたってのきっかけ（動機）	・ 過去に島根県のサイトで、映画・ドラマのロケ地を取り上げていたため、この映画でもロケ地を取り上げることとなった
事業の目的	・ 島根県の魅力を情報発信するための公式サイトであり、県から委託を受けてサイトを運営している ・ 過去にも、ロケ地を掲載して反響があったため、この映画でもロケ地巡りのルートを掲載した
地域の協力体制 （行政、企業、民間団体等）	・ 【一畑電車】　連携・協力 ・ 【島根県】　HPの運営 ・ 【映画製作会社】　写真の提供 ・ 【民間事業者】　撮影時における施設の利用
事業規模、収支	・ 1ページあたり12万円
今後の課題及び継続していく際のポイント	・ サイト運営者と島根県や制作会社と情報の確認などの打合せを丁寧に行うこと
事業効果 （地域への経済効果含む）	・ ホームページにアップした際の検索件数はかなり上がっているので情報発信としての効果は高い ・ 映画が上映された2010年から数年間は、民間会社経由の旅行ツアーや一畑電車ロケ地を訪問する観光客数は増加している
まとめ	・ 県から委託を受けてサイトの運営を行っている ・ 首都圏などから、ロケ地をめぐるツアーを実施している ・ サイト以外の媒体でも島根観光連盟と連携した情報発信を行うことで、このサイトの情報発信の効果を高めている ・ 検索件数はかなり上がっている

４．事例調査に基づく地域振興のポイントの整理

（１）地域振興のポイントの整理

アンケート調査を行った12事例に関して､各事例のまとめから導き出される地域振興のポイントは、収支の確保、戦略的な企画、ねらい・効果の明確化、体制の構築の４つの面に整理できる。

【①収支の確保】初期投資をおさえ、企画の収支を確保することが重要

・赤字の取組みは継続が難しく、収支の黒字化が重要であり、少なくとも取組みにかかる経費分の収支を確保することが重要である。

・初期投資が大きい場合は鉄道事業者にとっても、地域の団体等にとってもリスクが大きいことから、初期投資を抑えることが重要である。

・初期投資を抑える方法としては、クラウドファンディングや補助金を活用することにより資金を確保する方法、廃棄車両や遊休車両といった手持ちの資源を有効活用する方法が考えられる。

【②戦略的な企画】ターゲットに訴求できる企画を立案し、検証、見直しが重要

・そこにしかない資源や鉄道ならではの魅力を活かした企画など、ターゲットを明確にした企画にすることが重要である。

・特に地域連携タイプの場合は、自転車等他の交通モードに興味のあるターゲットを設定することで、沿線の資源を有効活用することが可能になり、企画の幅が広がる。

・ターゲットに対して、企画の内容を確実に届ける情報発信が重要である。情報発信の得意な主体と連携することや、メディアを有効活用することが効果的と考えられる。

・企画は実施するだけではなく、実施後に検証や見直しを行うことで内容を充実させていくことが必要である。

【③ねらい・効果の明確化】何をねらうのか、どんな効果を期待するのか明確にしておくことが重要

・地域や鉄道の課題を的確におさえて、それに見合った企画になっていないと、鉄道利用者を増やしたいのに、イベントだけに参加し、鉄道を利用しないといった状況に陥る可能性がある。

・シーズンオフの鉄道利用者を増やすなど、ねらいを明確にしておくことが重要である。

・様々な取組みがきっかけとなり、観光客や鉄道利用者の増加につながっている。

・食材の提供や地域の飲食店の客数の増加といった効果が地域への経済効果として期待できるが、地域連携タイプの方がその効果は高いと考えられる。

・地域と連携して取組みを実施することで、経済的効果以外にも、企画に取組む仲間の増加や地域貢献につながるといった効果が期待できる。

【④体制の構築】目的を共有し、協力者を得やすい取組みとすることが重要

・地域のシンボルを守る、地域の食材を使う、地域の資源を活用するなど、地域が参画しやすいテーマを設定し共有することで、協力者を得やすい状況を作り出すことが可能である。

・事業者と連携する場合は、事業者のオフシーズンを活用するなど、双方のメリットとなるよう配慮することで協力を得やすくなる。

・体制に不足するスキルがある場合は、それらのスキルを持った団体や事業者と積極的に連携することが重要である。

・事業者や団体によってメリットや動機は様々であることから、企画の目的を共有し、お互いに無理のない範囲で実施することが重要である。

■地域振興のポイントの整理

		車両活用タイプ	駅舎活用タイプ	地域連携タイプ
①収支の確保	収支	・鉄道指令室の見学や運転体験など有力なコンテンツがあるため、支出に見合うくらいの参加料を取ることができる。 ・出展者から500円/1区画の収入を得られているが、支出を賄えるほどの収入になっておらず赤字。	・3 年間の予算措置があるため運営に問題はないが、実際は赤字。	・事業継続のためには、赤字にならない規模での実施が必要。 ・地元企業から協賛を受けて運営。 ➲赤字の取組みは継続が難しく、収支の黒字化が重要
	初期投資	・廃棄車両を活用する取組みであるため、初期投資が抑えられる。 ・遊休している車両を活用しているため、初期投資が抑えられる。 ・改造にかかる費用を行政からの補助金を得ることで確保。	・クラウドファンディングを活用し改修費用を募っているため、補助金に頼らず自主財源で実施。 ・改修費として1,500万円の補助金を受けることでスタートアップ期の資金としている。	➲車両活用タイプの場合は廃棄車両や遊休車両の活用により初期投資を抑えることが可能 ➲クラウドファンディングや補助金の活用など初期投資を抑えることが可能
②戦略的な企画	ターゲット	・「鉄道」×「運転体験」というコアなターゲットに訴求できる企画。 ・「鉄道」×「岐阜舞妓」という地域資源を活用しており、ターゲットに訴求できる企画。 ・昔の車両を活用することで、車両自体が集客のツールになっており、鉄道のコアなファンも引き付けている。	・「鉄道」×「カープ」という事業にすることで、コアなターゲットに訴求することができる仕組み。 ・子供にフォーカスをあてた取組みを行っているため、参加者を増やすことに成功。	・「鉄道」×「自転車」の企画にすることで、コアなターゲットに訴求できる企画。 ➲地域資源や鉄道の魅力を活かしターゲットを明確にしたプログラムが多い ➲地域連携タイプは自転車など他の交通モードとの連携により企画の幅が広がる
	情報発信	・情報発信を担う協力体制を構築。	・「鉄道」×「移住相談窓口」という新しい枠組みのため、メディアに取り上げられ認知度が上がっている。	➲情報発信の得意な主体との連携が有効 ➲これまでにない新たな取組みなどメディアを活用することも有効
	検証	・ターゲットの変化に伴い企画を見直ししており、この事業内で PDCA サイクルを回すことができている。	➲企画の実施後の検証（PDCA）による見直しが重要	
③ねらい・効果の明確化	目的設定	・マルシェに来る人は沿線居住者であるため、鉄道利用を促進する取組みにならない。 ・沿線住民や地元事業者が鉄道に触れるきっかけになった。 ➲車両活用タイプの場合は、食材提供により、事業者等に経済効果が出ている	➲ターゲット設定を誤ると目的（鉄道利用促進等）につながらない ➲シーズンオフなど利用者が少ない時期に実施することで利用者の底上げにつなげている ➲鉄道の認知度向上や活動する仲間の増加につながる可能性がある	・参加者は車で起点地まで来る人もおり、電車の利用促進につながらなかったため、電車と他の交通を組み合わせた仕組み作りが必要。 ・旅行者のシーズンオフに合わせて企画を実施することで、乗客数の底上げを図っている。
	地域への効果	・地元食材を提供してくれる事業者や飲食店の経済効果はプラス。 ・予算額を超える収入を得ることができた。 ・鉄道収入・飲食店収入等の経済効果はプラス。	・メディアに掲載され認知度が上がっている。 ・観光客や駅利用者は増加。 ・地域貢献活動（CSR） ・新しい仲間が増えたので、新規企画の検討。	・地域事業者や飲食店の経済効果はプラス。 ・検索件数はかなり上がっている。 ➲地域連携タイプの場合は、飲食店の経済効果につながっている

		車両活用タイプ	駅舎活用タイプ	地域連携タイプ
④体制の構築	合意形成	・地域の食材を利用して地域にお金を落とす仕組みになっているため、地域からの協力を得やすい。	・「カープファンが集まる」地域の特徴をつかんでおり、全国のファンが募金をしやすい仕組みを構築しているため、協力を得られやすい体制となっている。 ・築100年の木造駅舎を活用しているため、建物が地域のランドマークとなっており、地域に馴染みやすい事業となっている。 ・「地域を楽しくすること」を目的に掲げているため、住民が参加しやすい雰囲気となっており地域の協力を得やすい。	・甘木鉄道を地域の資産としてとらえ、会が主体となりイベントの企画を行っているため、同じ視点の地域協力者から協力を得られている。 ・「活性化戦略プラン」を作成し、事業に取組んでいるため、地域協力者も同じ目標を共有。 ➲地域資源の活用や共通のテーマを設定することで地域が参加しやすい仕組みになっている
	役割分担	・鉄道と舞妓のオフシーズンに合わせて事業を実施することで、どちらの事業者にとってもwin-winな関係を構築。 ・事業にかかる一連の業務が、協力体制の中で業務分担されている。	・地元自治会や設計事務所など必要な人脈や技術のある人とチームを構築することに成功。 ・地域の協力体制を構築して事業を実施しているため、役割が明確になり上手く事業が進んでいる。	・鉄道社員や地元住民が協力をし、地元の駅の飾りつけを行っている。 ➲オフシーズンの企画は事業者双方のメリットになっている ➲必要なスキルを持った協力者との協力体制を構築することが重要
	モチベーション		・「やりたい人がやりたいだけやること」というスタンスで運営しているため、参加メンバーのモチベーションを維持。	➲無理のない活動をすることで地域や事業者のモチベーションにつながる

第２章　地域鉄道をモデルとした実証・効果検証

１．実証実験の概要

（１）概要

前章での事例調査の分析を踏まえ、平成筑豊鉄道と甘木鉄道を活用して、以下の４つの実証実験及び効果検証を行うことにする。

実証実験を行うにあたり、地域参画型の取組みであること、事業主体が明確で今後の自立性・継続性が見込まれること、業務工期を勘案して短期的に企画・募集・催行が可能なものであることなどを条件に絞り込みを行った。

■実証実験の概要

鉄道会社	プロジェクト名	概要
平成筑豊鉄道株式会社	平成筑豊鉄道×フォトツーリズム 視点採集「平成筑豊鉄道」編	・平成筑豊鉄道沿線において、身近な風景から自分らしい１枚を写し取り、今まで気づかなかった見方や、新しい視点を蒐集（視点採集）していこうというフォトワークショップを実施した ・メジャーな観光資源を撮影する企画ではなく、沿線住民の方でも、日頃気が付かないような資源を掘り起こしていくことが、本イベントの狙いである ・写真撮影の後は、列車内でプロジェクターを活用した写真講評会を実施し、列車の新たな活用を行った
	平成筑豊鉄道×インバウンド ローカルエクスペリエンスツアー	・ALT（外国語指導助手）を対象に、平成筑豊鉄道沿線で体験できるアクティビティをパッケージ化して、インバウンド向けのモニターツアーを実施した ・今回は、福岡県地域鉄道活性化推進協議会が中心となり、ツアーの企画・調整・催行を行い、それを支援する形で事業の実施を遂行した
甘木鉄道株式会社	甘木鉄道×婚活イベント 夫婦くすのき参り♥あまてつコン	・甘木鉄道とその沿線地域を利用した婚活イベントを実施した ・婚活イベントに地域資源を盛り込んだプログラムとすることで、甘木鉄道とその沿線地域を知ってもらう契機とする
	甘木鉄道×インバウンド 農泊体験ツアー	・地元協議会が企画するインバウンド向けのモニターツアーにおいて、今後のFITに対応すべく公共交通を使った来訪の検証として、甘木鉄道の乗車を行った ・外国人の地方鉄道の利用の障壁チェック、さらには、観光協会や鉄道会社と連携した商品造成に向けた可能性を検討する

２．平成筑豊鉄道×フォトツーリズムの実施結果

（１）概要

平成筑豊鉄道沿線において、身近な風景から自分らしい１枚を写し取り、今まで気づかなかった見方や、新しい視点を蒐集（視点採集）するモニターツアーを実施した。

写真撮影後は、平成筑豊鉄道操車場内にて、貸切列車を活用した写真講評会を実施した。

また、本イベント後に、ウェブやSNS（Instagram等）による情報発信を参加者に促し、平成筑豊鉄道沿線の資源を地域外の方々にも知ってもらうきっかけづくりを行った。

■プロジェクト概要

鉄道名	平成筑豊鉄道株式会社	地域団体等	赤村特産物センター
プロジェクト名	視点採集「平成筑豊鉄道」編	協力会社等	株式会社エフ・ディ(デザイン会社:各地でフォトツーリズム等を多数企画運営)
日時	2018年2月25日(日) 8:00～18:00	参加対象	福岡市内に居住し、写真撮影に興味がある方
場所	平成筑豊鉄道　田川伊田駅、油須原駅周辺　等	参加人数	12名(別途、スタッフ4名)
広報周知先	沿線自治体(平成筑豊鉄道推進協議会)、記者クラブ(プレスリリース)	その他	参加者には、撮影した写真等をSNSでの拡散を要請

■プロジェクトの狙い

項目	内容
企画の新規性	・　平成筑豊鉄道でこれまで実施したことがない企画を実施する
資源の掘り起こし	・　できる限り、鉄道駅から徒歩で巡ることのできる地域資源の掘り起こしを行う ・　メジャーな観光資源でなくても、鉄道沿線の資源でストーリーをつなぎ合わせられるような資源の発掘を行う
情報発信	・　鉄道沿線やその周辺資源を、地域外の方にも知ってもらうことができるよう、情報発信（SNSやホームページ等）を行う
地域での企画や受入体制	・　鉄道以外の他の交通モード（バス、自転車等）と連携したルートやプログラムの検討を行う

■プログラム

時刻	内容	交通機関等	場所
8:00	●日本銀行前集合（西鉄バス）・点呼	―	日本銀行前
8:15	○移動（日銀前→田川伊田駅） ・開催趣旨、注意事項等の説明	貸切バス	バス内
9:45	●田川伊田駅 到着	―	田川伊田駅
9:50	●散策・写真撮影①（田川伊田駅周辺） ・伊田商店街、石炭記念公園、風治八幡宮　等	徒歩	田川伊田駅周辺
11:15	○移動（田川伊田駅→赤村特産物センター）	貸切バス	バス内
11:35	●昼食・フリータイム ・赤村特産物センターにてお土産購入・昼食	徒歩	赤村特産物センター
12:35	○移動（赤村特産物センター→油須原駅）	貸切バス	バス内
12:40	●散策・写真撮影②（油須原駅周辺） ・油須原駅駅舎、赤村特産物センター　等	徒歩	油須原駅周辺
13:41	○移動（油須原駅→金田駅） ・講評会に向けた写真の整理　等	平成筑豊鉄道	電車内
14:20	●会場設営・発表準備等	―	金田駅構内（操車場）／電車内
14:30	●講評会（金田駅構内／列車内にて） ・各自発表、石川氏より講評、アンケート記入	―	
16:00 18:00	○移動（金田駅→日銀前）、解散	貸切バス	バス内

（２）実施の様子

福岡市内から貸切バスにて移動

田川伊田駅にて視点採集の主旨説明

田川伊田駅周辺にて各自写真撮影①

田川伊田駅周辺にて各自写真撮影②

赤村特産物センター関係者との交流

油須原駅での記念撮影

操車場に停車した列車が講評会会場

列車内での写真講評会の様子

列車内にて関係者全員での記念撮影

（３）当日実施レポート

本イベントのテーマは、「視点採集」としており、各参加者がそれぞれ設定した「視点」をもとに鉄道沿線の地域資源を撮影した。「視点採集」とは、ひとつの視点を通して撮影することで、今まで気付かなかった見方や新しい視点（今回は全 13 視点）を蒐集するワークショップであり、以下のような流れで実施した。

■フォトワークショップの流れ

ステップ	内容
どんな「視点」で撮るかを決めて撮影する	・何気なくシャッターを切るのではなく、1 枚 1 枚を大事に、意識しながら考えて撮ることで、写真に「自分らしさ」が表れてくる。 ・自分はこういう「情景・光・色・形状」が好きなんだと改めて気付くきっかけにもなる。
写真のセレクト	・撮影した写真の中から、自分の視点・テーマに沿った 10 枚をセレクトする。 ・ひとつの視点で撮られた写真をまとめて見せることで、テーマがより強く伝わる。
各自発表・講評会	・写真をプロジェクターで投影しながら、どういう視点で撮ったのかを自分の言葉で発表する。 ・他の人が撮った写真を見ることで新たな切り口・視点を得ることができる。

■参加者の視点／視点の選定理由　※撮影した写真や講評等は、資料編を参照

No	視点	視点の選定理由
1	「時間の流れを写しこむ」	・かつては JR で石炭を運んでいた鉄道が、年号が平成に変わる瞬間に平成筑豊鉄道という新しい名に変わったというような歴史を知った ・そこで、「時」に視点を定め、瞬間を切り取る写真の中に、時間の流れを写し込むことを狙い撮影した
2	「その場所でしか見られない、文字のある風景」	・鉄道関係の看板などの文字がレトロでかっこいいと人気があり、注目を浴びているとテレビや本で見ており、「文字」に注目して撮影した
3	「アート」	・子どもの頃の夢は画家だったことから、「アートみたい」だと感じるものを探して撮影した
4	「文字」	・平成筑豊鉄道は学生時代に通学で使っていたので、（文字等も含めて）とても懐かしさを撮影した
5	「人工物と自然物の枯れる様相」	・筑豊といえば炭鉱を思い浮かべるかと思いますが、実は近代でいうと、鉄の方が代表産業である ・そうしたこともあり、鉄にまつわるもの、さらに大きなテーマとして「枯れる」ということに注目し、撮影した
6	「囲い」	・田川での視点採集が決まった時に、事前に地図を見ていて、山に囲まれたところだと思ったのが第一印象であった ・当日訪れて、山が街を守っている場所だと感じたので、視点を「囲い」にして、山や木・壁が囲っている写真を撮影した
7	「色」	・初めて訪れた平成筑豊鉄道の沿線という場所で、初めて見てワクワクしたものを中心に撮影した
8	「スタンプラリー」	・様々なスポットがあり、スタンプラリーをやるなら、どこをスポットにしたいかということを考えて撮影した
9	「跡地」	・人や生き物や風景の跡等、何かストーリーが感じられるものやエピソードがありそうなものを撮影した

No	視点	視点の選定理由
10	「子どもの僕と一緒にいる母親の目線」	・赤ちゃんだった頃の小さな僕を抱いて、あやしながらこのまちを歩いていた母親の目には、こんな風に映っていたのかなと想像しながら撮影した
11	「路地裏」	・最近、路地裏が気になっているので、歩いて気になった路地や通りに注目して撮影した
12	「夢の中で」	・初めて訪れた場所を地元として捉えようとして感じた「違和感」は、まるで夢の中にいるような感覚だったので、その気持ちで撮影した
13	「粋」	・言葉の正しい意味は「江戸時代に庶民の美意識から生まれたもの」になるが、それが実は田川の中にいっぱいあると感じ、田川の繁栄の余韻を「粋」というテーマで撮影した

■当日参加者が撮影した写真（一部抜粋）※撮影した写真や講評等は、資料編を参照

（No.１：「時間の流れを写しこむ」）

（No.２：「その場所でしか見られない、文字のある風景」）

（No.３：「アート」）

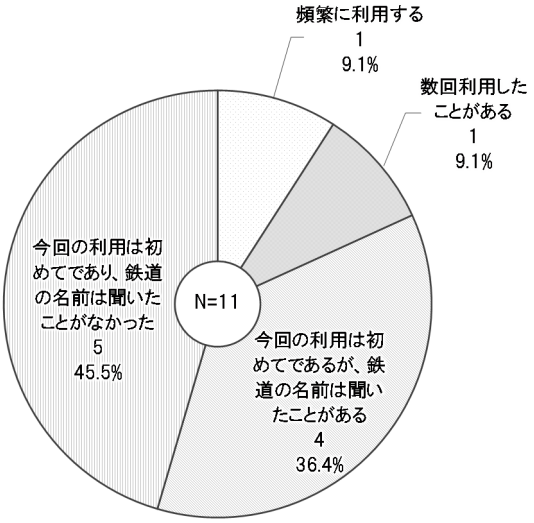
（４）参加者アンケートの結果

本イベントの参加者に対して参加した感想や意見の他、本イベントを今後観光商品化していく上での課題等を調査した。その結果は、以下の通りである。

■「平成筑豊鉄道」に関する設問

問１　これまでに平成筑豊鉄道を利用したことはありますか。

「今回の利用は初めてであり、鉄道の名前は聞いたことがなかった」が 45.5%で最も多い。次いで、「今回の利用は初めてであるが、鉄道の名前は聞いたことがある（36.4%）」となっている。



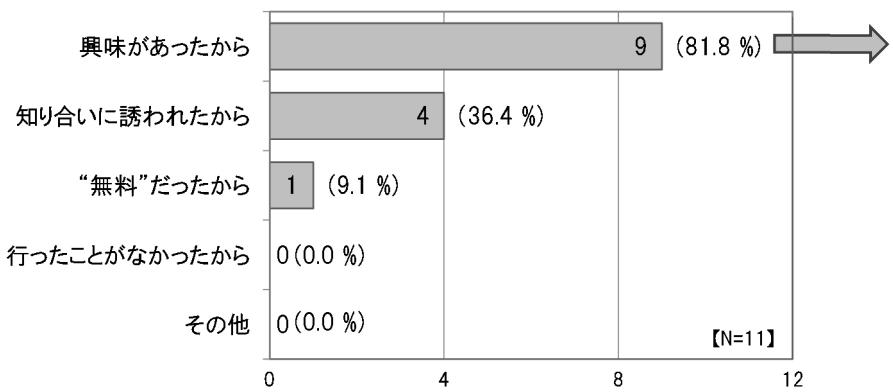
問２　問１で「1」「2」と回答された方、どのような用途で利用されましたか。（複数回答）

用途	件数
通勤･通学	1
観光	1

■「本イベント（視点採集「平成筑豊鉄道」編）」に関する設問

問３　このツアーに申し込まれた理由をおしえてください。（複数回答）

「興味があったから」が 81.8%で最も多い。詳しくは、「写真好き」と回答した人が最も多い。

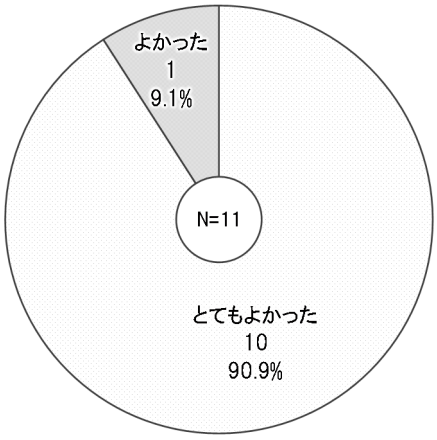


項目	件数
写真好き	8
鉄道好き	2
地元	1

問４　本イベントはいかがでしたか。

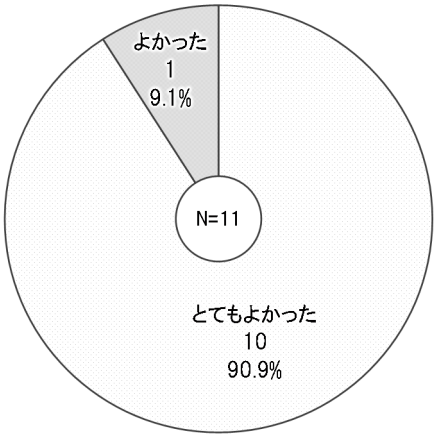
①視点採取（写真撮影しながらのまちあるき）

全員がよかったと回答している。



②写真講評会（列車内での講評会）

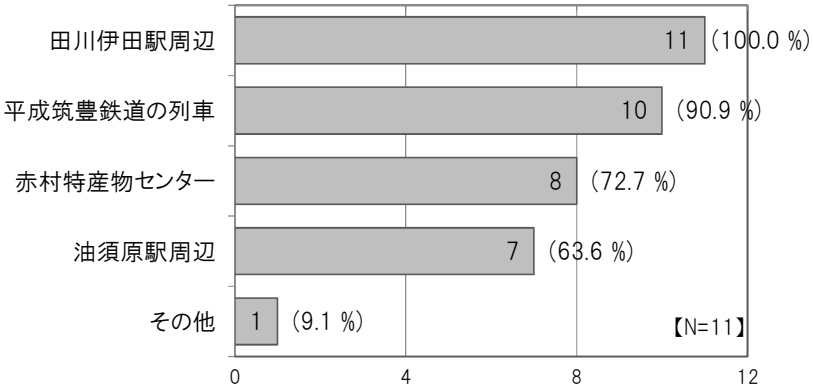
全員がよかったと回答している。



問５　訪れて「よかった場所」と「その理由」を教えてください。（複数回答）

「田川伊田駅周辺」が 100.0％で最も多い。次いで、「平成筑豊鉄道の列車（90.9％）」となっている。

【よかった場所】



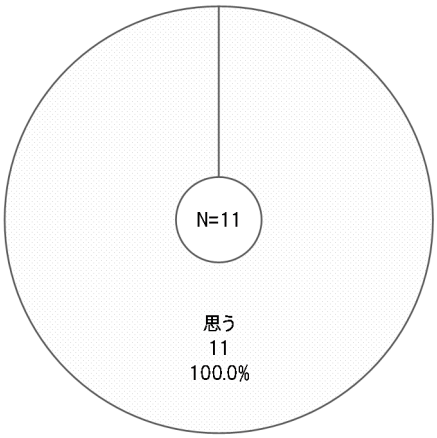
その他の意見
・平筑の活動

【理由】

理由
初めて見る景色はすごく魅力的だから。
雰囲気があって良かった。特に田川伊田駅周辺の町なみと駅舎。
どの場所もそこならではの雰囲気があり、とても楽しめました。ただ、今回のイベントのように何かの目的（要素）があれば、また訪れたいなと思うところばかりでした。
伊田駅近くのお弁当やさんのからあげが、びっくりするくらい美味しかったです。特産物センターの AKB64 の方々もとてもあったかくて、油須原駅はレトロな駅舎がとても素敵でした。列車も普段一両だけの列車に乗る機会がないので、とても新鮮でした。
田川伊田駅周辺：商店街周辺のレトロ感が良かった。 赤村特産物センター：カレーを食べてみたい。
昔とだいぶん様子が変わってしまっていたけど、行ったことのない路地を歩いたり、新鮮なツアーでした。
素朴さ。ゆっくりとした時間。車の数。
なかなか平成筑豊鉄道に乗れる機会がなかったので、乗れて良かった。
田川伊田駅周辺：レトロな町なみが素敵でした。昔の物、独特のつくりの良さや粋みたいなものが感じられます。 平成筑豊鉄道の列車：ゆるい感じが良いです。あと、ゴミ箱。
その場所ごとに息づく様々な人々の生活が見えて興味深かった。

問６　本イベントを通じて、また平成筑豊鉄道や沿線地域に訪れたいと思いますか。

全員が思うと回答している。



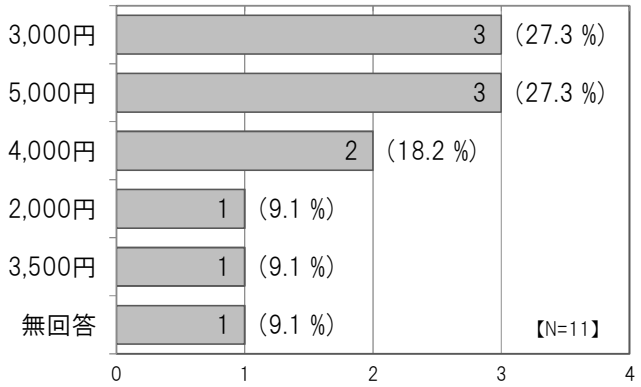
問 7　問 6 で「1. 思う」と回答された方、今回巡ったところ以外に平成筑豊鉄道沿線で巡ってみたい場所とその理由をお教えください。【自由記述】

巡ってみたい場所	理由
河原	モノクロのシルエットに合いそう。
源じいの森駅	今回、回れなかったため。
―	何かの体験ができるものがあれば、行きたいなと思います。
―	次はおまつりの時に是非来てみたいです。
直方、行橋、源じいの森	まだ知られていない撮影スポットがありそう。
直方	古い建物が多く、見ていて楽しい。
源じいの先の鉄橋ルート（夏）	よく写真で見るため。
夏の源じいの森	川や山に行きたい。
田川伊田	神幸祭を見てみたいです。
行橋	歴史が長い物が多そう。
源じいの森	温泉。

■本イベントを今後、観光商品化していく場合の課題等について

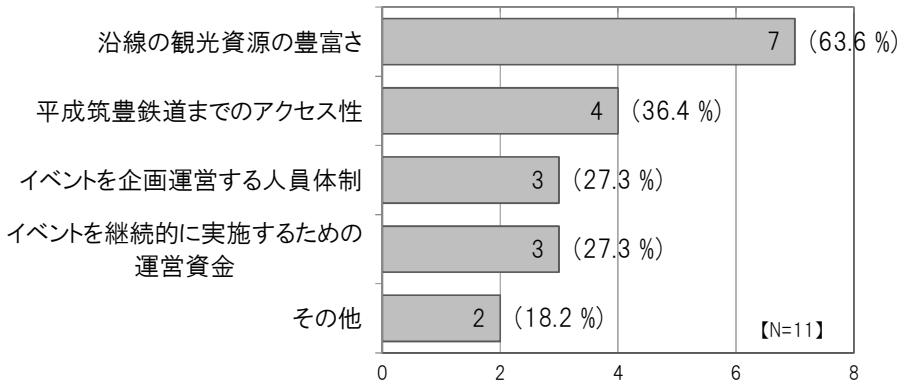
問 8　今回のようなイベントを今後同じ内容で実施するとした場合、いくらまでなら参加したいですか。（食事代等 込）

「3,000 円」「5,000 円」が 27.3%で最も多い。



問 9　今回のようなイベント行う上で、地域と鉄道事業者等が連携をし、継続的な企画検討・観光商品化を行っていくことが重要となります。その上で課題となりそうなことはどのようなことですか。（複数回答）

「沿線の観光資源の豊富さ」が 63.6%で最も多い。次いで、「平成筑豊鉄道までのアクセス性（36.4%）」となっている。



問 10　その他、本イベントに対する感想をお教えください。

自由意見
初めて訪ねる場所を切り取って持ち帰るイベントはすごく楽しい。自分で検索するのには、色んなフィルターがかかるので、全く知らない場所、考えてもみなかったワード等を与えてもらえると、自分の視点や行動範囲を広げるためにとても有難いです。ありがとうございます。 「日帰り」でのイベント参加も嬉しいです。荷物が少ないと気持ちも軽くなるので、今回のようなバス移動も助かりました。 赤村特産物センター→油須原駅間の河原で撮影したい。また改めて撮りに来ます。ありがとうございました。
初めて訪れたのですが、雰囲気がよく、温かい感じがしたので良かったです。地元の方々と触れ合える機会がもっとあっても良いかなと思いました。ありがとうございました。
なかなか他ではできない体験ができました。ごはんも美味しく、とても楽しめました。ありがとうございました。
観光する時に食べ歩きにおすすめなお店などがあるとすごく魅力的だと思いました。初めて写真を撮り歩くというイベントを体験して、その町により愛着の湧く行為だなと感じました。自分の目から見た町と他の人たちから見た町の違いなども見られてとても楽しかったです。
みんなで写真を撮るという目的がとても楽しかったです。特に列車の中での発表会は、とても良い思い出になりました。
もっと時間があればとも思ったが、逆にちょうど良い感じでした。そして、列車や車庫で発表会が聞けて、貴重な体験をさせていただきました。
改めて田川の町をいつもと違う目線で見られて良かったです。神幸祭以外にも田川に来る理由を今後もっと皆さんに知ってもらえるように頑張って頂きたいです。最近、インスタグラムも流行っているので、フォトツアーとか良いと思います。
写真をやっているからかもしれませんが、知らない町を歩くのはとても楽しかったです。レトロさもあって見るものが多かったと思います。視点の切り替え、大事ですね。
貸切列車というアイデアがとても良いと思います。ひとつ星ほどコンセプト色を高めなくても、楽しいイベントは作れそうに思います。

（５）鉄道事業者ヒアリング

本イベントには、平成筑豊鉄道株式会社 代表取締役社長　河合賢一氏にも参加いただき、イベントやその後のアンケート結果を踏まえた上で、4 つの視点から講評をいただいた。講評内容に関しては、以下の通りである。

■鉄道事業者（平成筑豊鉄道）からのフィードバック

項目	内容
認知度	・平成筑豊鉄道の沿線自治体を含め、地元側は域外の平成筑豊鉄道のことを知らない人が何を求めているのかという「ニーズ」を知る機会がない ・このため、地元側には平成筑豊鉄道や沿線自治体の認知度が高くないことを認識していただいた上で、その認知度を高めるための取組みを考えていく必要がある
ターゲット	・本イベントは、貸切型のバスツアーとしても成立する可能性を感じたが、個人旅行客や海外個人旅行客（FIT）でも成立する可能性がある ・本イベントでは、貸切バスでスポットを移動する行程もあったが、その間を列車や徒歩移動することで、個人単位での旅行を行う可能性を感じた
マーケット／ アクセス性	・本イベントの参加者は、主に福岡都市圏からの参加者であった ・福岡都市圏からでも平成筑豊鉄道沿線に来るには自動車で約 1 時間、鉄道を活用して約 1 時間半程度かかるものの、貸切バス等の他の交通モードと組み合わせることで、アクセス性や利便性を高めることができる ・福岡都市圏の方に平成筑豊鉄道沿線に来てもらうために、アクセス方法等に関する情報も積極的に発信していく必要がある
コンテンツの可能性	・通常、鉄道と連携した写真企画であれば、列車もしくは、列車と風景を切り取った写真が多い ・しかし、本イベントのように地域資源、その中でも普段人々があまり気に留めないような地域資源（文字や色、アート等）を掘り起こしていく企画にも今後展開していく上での可能性を感じた ・また、鉄道写真だけに特化するだけでは得ることのできない広いマーケットがあると感じた
情報発信	・本イベントにおいては、参加者に平成筑豊鉄道もしくはその沿線写真を SNS（Instagram、twitter、Facebook）等で情報発信することを促していただいたが、ほぼ投稿は見られなかった ・これは、今回の企画や参加者に問題があったというわけではなく、企画の特性上、本イベント内で情報発信を含めて企画が完結していた可能性がある（写真講評会において、各自撮影した写真を関係者全員に共有しており、個人的に情報発信するという欲求が湧かなかった可能性がある） ・「ターゲット」でも記載しているように、個人単位で旅行した場合は、自分しか見ていない風景等を SNS で広く周知したいという欲求が湧くと考えた場合、個人旅行客に SNS での情報発信を依頼する方が可能性があると考える

（６）実施結果

（１）～（５）の結果を踏まえ、鉄道事業者、地域、観光客目線で本イベントや、今後、観光商品化を図っていく上での気づき等を以下にまとめる。

■各主体目線での気づき等

鉄道事業者	・「鉄道」と「フォトツーリズム」を組み合わせることで、これまで平成筑豊鉄道に乗ったことのないターゲットへの需要喚起ができる ・観光客にとっては、列車内での車掌マイクを活用したプレゼンや車掌との触れ合い、列車で観光をするという「既にある資源」を活用するだけでも、その体験に希少価値を高めることにつながった ・貸切バスによるツアーだけでなく、個人旅行客をターゲットとした企画の実施の可能性があることが分かった ・鉄道と他の交通機関（高速バス等）と組み合わせることで、参加者のアクセスにかかる負担を小さくすることができる
地域 （住民・行政）	・地域側が特別にサービスを提供しない場合でも、地域の特産品や地域の方々のありのままの暮らし、ふれあいを行うことにより、参加者の満足度を高める事ができる ・特に地域の人やその人の想いのこもった特産品に触れることが、その地域でしかできない体験となり、特産品を購入する等で、地域にお金を落とすきっかけづくりを行うことができた ・鉄道は複数市町村に跨るため、普段から鉄道事業者と地域（住民・行政等）が連携し、両者の取組みに関して共有できる機会が求められている（両者の取組みを知ることで、互いに課題や展開方法を見つけるきっかけとなり、取組みが継続していく可能性がある）
観光客	・普段できない、その地域でしかできない体験を求めており、その地域のありのままの風景や地元の人との会話といった地域側との触れ合いが好まれていることが分かった ・列車に乗るという体験自体が、これまで経験したことがないという観光客も多く、それが希少価値を高め、満足度向上につながっている ・ツアーターゲット（今回は、写真が好きな方）を絞り込み、そのターゲットに的確に情報発信を行うことが、よりツアーの質や参加者満足度を高めることが分かった
成果	➲ 鉄道と他のコンテンツの組み合わせが、鉄道に新たな客層を引き込むきっかけとなる ➲ コンテンツにあわせたターゲット・マーケティングを行い、的確な情報発信・募集を行うことが、より企画の質を高める ➲ 鉄道に乗るまでのアクセスは、他の交通モードとの組み合わせにより、利便性を高める可能性がある ➲ 地域になるべく負担をかけず、「地域のありのまま」を巡るツアーも十分に需要がある
課題	➲ 平成筑豊鉄道沿線に来訪する際には、福岡都市圏からでも鉄道を乗継ぎ、1 時間半程度が必要であり、アクセスが悪い ➲ 鉄道以外の他の交通機関（高速バス等）と連携し、観光客のアクセス利便性を高める必要がある ➲ 「写真好き」というターゲットを引き込むことのできる可能性はあるものの、写真好きというコアターゲットが鉄道や沿線のファンになってもらうことのできる仕掛け（撮影した写真を油須原駅で写真展を行う等）を検討する必要がある ➲ 鉄道事業者だけではなく、沿線市町村と連携した取組みを行うことで、巡る場所の幅が広がり、受け入れ体制がより強化される可能性がある

３．平成筑豊鉄道×インバウンドの実施結果

（１）概要

筑豊地域の県立高校や教育委員会に勤務する５名の ALT（外国語指導助手）を対象に、平成筑豊鉄道沿線で体験できるアクティビティをパッケージ化して、平日午後の半日で開催できるインバウンド向けのモニターツアーを実施した。

また、今回は福岡県地域鉄道活性化推進協議会が中心となって、ツアーの企画・催行するものを支援する形で行った。さらに、ツアー終了後には、福岡県観光連盟の英語ホームページ等で、英語圏外国人に向けてツアーレポートを掲載する予定で進めている。

■プロジェクト概要

鉄道名	平成筑豊鉄道株式会社	地域団体等	福岡県地域鉄道活性化推進協議会 （事務局:福岡県交通政策課） 赤村役場政策推進室
プロジェクト名	平成筑豊鉄道×インバウンド ローカルエクスペリエンス ツアー	協力会社等	源じいの森、林龍平酒造場
日時	2018 年 2 月 27 日（火） 13:30～17:00	参加対象	筑豊地域の県立高校や教育委員会に勤務するALT（外国語指導助手）5名
場所	平成筑豊鉄道　油須原駅、源じいの森、林龍平酒造場　等	参加人数	5名（別途、スタッフ4名）
広報周知先	福岡県庁記者クラブ（プレスリリース）、福岡県観光連盟の英語ホームページ（事後）	その他	参加者には、各自レポート提出を依頼、ホームページでの情報発信に活用する

■プロジェクトの狙い

項目	内容
企画の新規性	・　冬場×平日という閑散期の集客事業としての可能性を検証する ・　福岡県と連携することによって、ALT を対象としたモニターツアーを実施する ・　欧米系をターゲットとしたツアーのお試しを実践する
資源の掘り起こし	・　陶芸体験と利き酒という 2 つの地域体験が、外国人の琴線に触れるのか検証する ・　平成筑豊鉄道 1 日乗り放題きっぷを活用したプランを造成する
情報発信	・　ツアー後に、福岡県観光連盟の英語ホームページ等で、英語圏外国人に向けてツアーレポートを掲載し、今後の誘客につなげる
地域での企画や受入体制	・　福岡県地域鉄道活性化推進協議会がツアーを主催するテストケースを検証する ・　平成筑豊鉄道利用や体験プログラムにおいて、外国人への対応状況を把握する

■プログラム

時刻	内容	交通機関等	場所
13:30	●平成筑豊鉄道 田川伊田駅集合・ガイダンス	―	改札口前
13:48	○移動（田川伊田駅→油須原駅）	平成筑豊鉄道	電車内
14:05	●油須原駅 到着	―	油須原駅
14:10	●油須原駅の案内ガイド（赤村役場職員）	徒歩	油須原駅周辺
14:40	○移動（油須原駅→源じいの森）	源じいの森バス	バス内
14:50	●源じいの森 キャンプ場散策（源じいの森職員） ・陶芸体験（インストラクター）	―	源じいの森
16:07	○移動（源じいの森駅→崎山駅）	平成筑豊鉄道	電車内
16:12	○移動（崎山駅→林龍平酒造場）	徒歩	崎山駅周辺
16:20	●林龍平酒造場 酒蔵見学・利き酒体験・お土産購入	―	林龍平酒造場
16:00	○移動（林龍平酒造場→崎山駅）	徒歩	林龍平酒造場周辺
17:00	●崎山駅 解散	―	崎山駅

（２）実施の様子

ガイダンスでは電車の乗り方をチェック

車内では会話や風景を楽しんで移動

1 日乗り放題きっぷをお試しで使用

油須原駅では役場職員にガイドをお願い

源じいの森では陶芸体験を実施

林龍平酒造場では試飲体験が大好評

丁寧な説明でお土産をたくさん購入

絵になる風景を横目に駅まで徒歩移動

旅の帰りも平成筑豊鉄道を利用

（３）参加者のレポート

モニターツアーに参加した５名の参加者のツアーレポートを、以下のとおり紹介する。

■参加者の属性

No	国籍	性別	勤務先
1	アメリカ	男性	田川市教育委員会
2	アメリカ	女性	福岡県立東鷹高等学校
3	アメリカ	女性	福岡県立田川高等学校
4	イギリス	男性	福岡県立鞍手高等学校
5	アメリカ	女性	福岡県立直方高等学校

■レポート１

1. Heisei Chikuho Railway（平成筑豊鉄道）

   The Heisei Chikuho Railway Line moves through some beautiful scenery. While riding trains on this line, you can easily view and appreciate the mountains and rice fields of the Japanese countryside. Plus, the Heichiku mascot is adorable.

   平成筑豊鉄道は、美しい景色を眺めながら移動することができます。この列車に乗っている間に、日本の田舎の山と田んぼを眺めて、その恵みを感じることができます。さらに、平成筑豊鉄道のマスコットキャラクターは愛らしいです。

2. Yusubaru Station（油須原駅）

   Yusubaru Station is a quaint little train station with a little history behind it. It is one of the oldest train stations in Kyushu and retains much of its original form. It was also the site of a Japanese television drama. The scenery is quite beautiful around the station, and the Genji no Mori camping grounds are within walking distance from it.

   油須原駅は趣のある小さな駅で、駅舎のなかに小さな歴史を感じます。九州の最古の鉄道駅のひとつで、元の形をそのまま残しています。それは日本のテレビドラマのロケ地にもなりました。駅前は景色がとてもきれいで、源じいの森キャンプ場も徒歩圏内です。

3. Genji no Mori（源じいの森）

   Genji no Mori is a camping ground in Tagawa. It has beautiful scenery that is wonderful for short walking hikes to enjoy the outdoors in fine weather. There are nice little cabins that you can rent and even a hot spring you can enjoy. You can also experience pottery-making.

   源じいの森は田川郡にあるキャンプ場です。天気の良い日には、屋外で楽しめる短いウォーキング・ハイキングにぴったりの景色があります。また、素敵なキャビンをレンタルすることもでき、温泉も楽しめます。陶芸体験もできます。

4. Hayashi Sake Brewery（林龍平酒造場）

   The Hayashi Sake Brewery, located within walking distance of the Heisei Chikuho Railway Line, produces some excellent local Japanese sake at super affordable prices. You can also take a tour of the brewery and learn about the sake-making process from the friendly brewery owners.

   崎山駅から徒歩圏内にある林龍平酒蔵場は、地元の材料を使って、手頃な価格で優れた日本酒をつくっています。また、醸造所を見学し、杜氏さんから製法について丁寧に学ぶこともできます。

■レポート２

Heisei Chikuho Railway
The Heisei railway is a fast and convenient way to explore the area. There is a plethora of things to do and places to see around the stations on this line.
平成筑豊鉄道は、この地域を旅するのに早くて便利な移動手段です。この沿線には多くの資源があり、駅の周りを見る場所がたくさんあります。

Yusubaru Station
Yusubaru Station, in Aka village is a quite and beautiful stop along the railway. The station’s all wooden architecture is very beautiful. If you are looking for a good hike, you can hop on to the Kyushu Nature from this station.
油須原駅や沿線地域は静かで美しいです。油須原駅の駅舎の木造建築はとても美しいです。よいハイキングをお望みなら、この駅から九州自然歩道に行きましょう。

Genji no Mori
If you enjoy the outdoors, then I would recommend a visit to Genji no Mori. The lodgings provided for camping are comfortable, and the natural scenery in the surrounding area is wonderful to take a walk though. At the end of the day you can rest and relax in the conveniently located onsen.
野外を楽しむなら、源じいの森をお勧めします。キャンプ場の宿泊施設は快適で、周囲の自然景観は素晴らしい。一日の終わりには便利な立地の温泉でリラックスができます。

Hayashi Sake Brewery
Located only a short walk through the beautiful nature surrounding Sakiyama Station. The owner is very friendly and gave a great tour with and explanation as to how sake is made. The sake which they produce is the best I have tasted yet!
崎山駅周辺の美しい自然を歩いてすぐのところにあります。オーナーはとてもフレンドリーで、酒造りに関する素晴らしいツアーと解説をしてくれます。彼らが作り出す酒は、私がまだ味わった最高のものでした！

■レポート３

The Heisei Chikuho rail line (colloquially known as “Heichiku”) is a convenient line running from Nogata to Yukuhashi with delightfully decorated cars that are always clean and spacious – no packing in like sardines with this car. It’s very helpful while visiting smaller countryside areas for hiking or sightseeing while still passing through larger stations.

平成筑豊鉄道は、直方から行橋に続く便利な路線で、きれいで広々とした快適な装飾が施されています。小さめの田園地帯を訪れてハイキングや観光を楽しんだり、大きな駅を通過したりするのはとても快適な時間です。

If you’d like to see history, Yusubaru station is for you. This train station has been running for over a hundred and twenty years and you can still see it as it was originally built – cute red post box out front and everything.

歴史を見たい方は、ぜひ油須原駅をご利用ください。この駅は 120 年以上の歴史があり、元々建てられていたように建物を見ることができます。

Genji no Mori is a dream location for camping and fun. Located across the street from both a train station and an onsen, you can come to this place and enjoy sakura blooming in April or fireflies in June, rent a barbeque or a cabin, even set up tents if you like!

源じいの森はキャンプを楽しむのには夢のような場所です。鉄道駅と温泉の両側に位置し、４月には咲き誇るサクラ、6 月にはホタル、バーベキューやキャビンを借りたり、テントを広げたりすることができます。

The Hayashi sake brewery was an interesting chance to see the behind-the-scenes story on how sake is made. With tanks bigger than I expected, an in-progress batch that smelled *amazingly* nice, and an English brochure on the method behind the madness, it was a fun experience to be had. And there’s bottles to buy if you want to partake later! Kampai!

林酒造場では、酒造りに関する舞台裏を見せてもらういいチャンスでした。私が予想していたよりも大きいタンク、驚くほど素敵な匂いがする発酵中のタンク、それらの方法が書かれた英語のパンフレットも良かったです。また、最後には、お土産のボトルを購入することができます！カンパイ！

■レポート４

All Aboard the Heisei Chikuho Railway!

Armed with our one-day pass, the Heisei Chikuho Railway allowed us to visit a range of fantastic tourist attractions in the Chikuho region. The train itself was very clean, quiet and efficient, galloping through the beautiful mountain and riverside scenery that Kyushu is so famed for. From Nogata 直方 to Yukuhashi 行橋 we were excited to explore the area further.

First stop, Yusubaru Station (yes, that's a train station!). The station, steeped in over 100 years of history, is one of the eldest train stations in all of Japan, retaining the classical wooden architecture that has come to epitomise Japanese craftsmanship. The picturesque surroundings provided plenty opportunities for the photographers amongst us!

Next up was Genjii no mori – Grandpa's woods! Perhaps my favourite part of the tour as we were provided the opportunity to try our hand at pottery making! Everyone enjoyed the experience immensely and we eagerly await receipt of our lovingly crafted wares. Additionally, we had the chance to purchase some of the beautiful products on offer – including grandpa himself!

The final stop of our tour was at the charming local sake brewery. We were educated on the methods utilised to create one of Japan's most cherished and distinct heritages. It was very insightful and, accompanied by a sample or three, thoroughly enjoyable!

1 日フリーパスを持って平成筑豊鉄道へ。筑豊地域の様々な観光スポットを訪れることができました。列車そのものはきれいで静かで効率的。九州でとても有名な山と川の美しい景色を眺めることができます。直方から行橋まで、私たちはさらに地域を探索することに興奮していました。

最初の停留所、油須原駅。100 年以上の歴史を誇るこの駅は、日本の職人技を代表する古典的な木造建築で、その姿をいまも残す日本全国で最古の鉄道駅の 1 つです。絵のような環境は、私たちの間で、写真家になったような機会になりました！

次は源じいの森。おじいちゃんの森！ここでは陶芸体験にチャレンジしました。　陶芸はツアーのなかで私の好きな部分です。誰もがその経験を大いに楽しんだので、私たちは心を込めてつくった作品の受取りが楽しみで仕方ありません！さらに、源じいさんのキャラクターを含めて商品を購入する機会もありました。

ツアーの最後は魅力的な地元の醸造所でした。私たちは、日本でもっとも大事にされている遺産、日本酒のつくり方に関してレクチャーを受けました。非常に洞察力があって、お酒の試飲とともに、お土産のサンプルももらって、とても楽しい経験でした。

■レポート５

The Heisei Chikuho railway, or the 'Heichiku' for short, is a modest and efficient system. With a welcoming, bright exterior and a comfortable internal design, the experience of the Heichiku is always a relaxing one. Some of the prefectures' most beautiful countryside views can be seen from this railway.

平成筑豊鉄道（略称：へいちく）は、控えめで効率的な運輸システムです。魅力的で明るい外観と心地よいインテリアデザインで、乗車の間はいつもリラックスしたひと時です。美しい田舎の風景の一部は、この鉄道から見ることができます。

Yusubaru Station, found along the Heisei Chikuho line, is a truly historic place. Over one hundred years old and built during the Meiji Era, the station remains standing and in service today. It is an impressive and venerable site to see.

油須原駅は、本当に歴史のある場所です。明治時代に造られた百年以上の歴史を持つこの駅は、今日もここに建っています。それは見るべき印象的で由緒のある場所です。

Genjii no Mori, as referenced in its name, is home to lush forests, as well as many other remarkable natural sites. The location provides access to a beautiful campground, gorgeous pottery or other hand-made goods, as well as a popular hot springs destination.

その名に由来する源じいの森は、青々とした森林のほか、他の多くの驚くべき自然の林地があります。美しいキャンプ場、豪華な陶器や他の手作りの商品、人気のある温泉を提供しています。

The Hayashi Sake Brewery contains an impressive array of equipment, a dedicated staff and some very delicious sake! With affordable prices and high-quality products, this brewery is understandably famous around the general area—and for at least the sake of sampling, worth a visit.

印象的な設備、スタッフ、とても美味しい日本酒を揃えています。手頃な価格と高品質の商品で、この酒蔵は、少なくともここで作られる日本酒のために訪れる価値があることは明らかです。

（４）プレスリリース用資料

福岡県庁記者クラブへ、事前にリリースしたプレス資料は、以下の通りである。

発表日　平成 30 年２月 22 日

担当課：企画・地域振興部交通政策課
担当者：吉田
連絡先：092-643-3693（内線 2984）

平成筑豊鉄道に乗って、地元で勤務する外国人指導助手（ALT）が地元沿線の見どころを発信します！

○２月 27 日（火）午後、筑豊地域の県立高校や教育委員会に勤務するＡＬＴ５名が外国人の視点で、平成筑豊鉄道沿線の見どころの魅力を発信します。
○当日は、平成筑豊鉄道に乗車して、平成筑豊鉄道の田川伊田駅から出発し、油須原駅（赤村）、源じいの森（赤村）を見学し、源じいの森で陶芸体験を行ったあと、林龍平酒造（みやこ町）において酒蔵の見学及び試飲を行います。
○この内容について、福岡県観光連盟の英語ホームページ等で、英語圏外国人に向けてレポートを掲載します。
○福岡県地域鉄道活性化推進協議会（※１）が九州運輸局に協力して、実施する事業です。

※１　福岡県地域鉄道活性化推進協議会とは
福岡県内の地域鉄道の利用者を増加させるため、各分野の主体により、多様な地域公共交通の活用方法を検討し、実施することを目的として自治体、交通事業者、観光、商工関係によって構成された協議会。事務局は福岡県。

【概　要】
・実施日時
平成３０年２月２７日（火）
１３時３０分～１７時０１分
（雨天決行）
・ＡＬＴ５名の出身国
アメリカ人４名
イギリス人１名

【源じいの森ほたる館】

・スケジュール

時間	所要時間	内容	
13:30　～		■平成筑豊鉄道田川伊田駅集合	自己紹介。
13:48～		■平成筑豊鉄道乗車	平成筑豊鉄道内において、事務局から①平成筑豊鉄道、②油須原駅、③源じいの森の当日の体験について概要説明。
14:05		油須原駅到着。	
14:05～14:20	（15分）	■油須原駅案内	赤村　担当職員より説明。質問の受付。
14:20～14:30		車で、源じいの森へ移動。	
14:30～15:00	（30分）	■源じいの森の案内	源じいの森職員により源じいの森の自然の案内。質問の受付。
15:00～16:00	（60分）	■陶芸体験	講師による轆轤を使った陶芸体験。
16:07～16:12		■平成筑豊鉄道乗車	途中経過する①第二石坂トンネル及び②林龍平酒造について、説明。
16:12		崎山駅到着。	
16:20～16:50	（30分）	■林龍平酒造案内	林龍平（五代目）による酒蔵案内。 地元・赤村の米により作った「我鹿の酒（あかのさけ）」を試飲。
17:01～		崎山駅にて解散。	

（５）実施結果

（１）～（４）の結果を踏まえ、鉄道事業者、地域、利用者目線で本イベントや、今後、観光商品化を図っていく上での気づき等を以下にまとめる。

■各主体目線での気づき等

鉄道事業者	・今回は福岡県地域鉄道活性化推進協議会から鉄道会社に事前に依頼し、1日乗り放題きっぷを提供いただいたため、それを使うことでスムーズな旅となった ・なお、帰りは団体行動ではなく、個人個人が最寄り駅で降りることとなり、降車の際に車両前方しか扉が開かず降りられなくなりそうな参加者が出るなど、外国人にとって乗降ルールはわかりにくいようだ ・油須原駅は駅舎自体が観光的価値、崎山駅は林龍平酒造場までの地域の風景、源じいの森駅は観光施設と隣接、鉄道からの眺めは里山風景が好評など、その観光利便性や鉄道を使った観光プログラムの作りやすさを改めて実感することとなった
地域 （住民・行政）	・油須原駅での赤村役場職員のガイド、源じいの森でのキャンプ場等の散策アテンド、陶芸体験での指導インストラクター、林龍平酒造場でのオーナーのガイドなど、丁寧な解説とおもてなしが好評だった ・また、源じいの森のスタッフが、油須原駅までバンで送迎をしてくれたことで、本数が少ない鉄道であっても、待ち時間を減らして観光が効率的にできる配慮をいただいた ・その一方で、少し英語を話すことができる源じいの森の地域おこし協力隊スタッフ以外には、英語が話せるスタッフがおらず、外国語への対応や言葉が話せなくてもコミュニケーションがとれる手法を学んでいく必要がある
観光客	・近隣に勤務するALTを対象にツアーを行ったことで、平成筑豊鉄道に乗る機会を提供できたことや、今後の沿線地域への来訪促進や友人への情報発信の起点になったことは成果だったと考えられる ・特に、林龍平酒造場での日本酒の試飲体験は好評だった ・酒蔵見学や油須原駅の駅舎のガイドに関しては、専門的な用語やその歴史を正しく伝える必要があるため、英語の通訳が必要だったと感じている
成果	➲ まず、1日乗り放題きっぷの使用は、料金がわかりにくい地方鉄道にあって非常に有効なツールである ➲ 平成筑豊鉄道は、駅舎自体、駅周辺の観光施設、列車からの眺め、どれをとっても観光の価値は高いと感じる ➲ 今回、ターゲットとして設定した欧米系の外国人を、まずALTで試験的に行ったことで実現できたことはひとつの成果である ➲ 特にでき立ての新酒の原酒を樽から直接汲んで飲む体験は好評で、ほかの地域では、また、いまの時期にしかできない体験には価値があると感じた ➲ そういった貴重な体験により、お土産の購入や再訪意向にもつながったと考えられる
課題	➲ 源じいの森以外は、外国語に対応するため通訳ガイドの必要があると感じた ➲ アルコールに関しては、宗教や体質もあるため、ツアーの際には事前にアルコールが飲めるのかの確認は必要である ➲ また、陶芸体験も好評ではあったが、焼きあがった後日に個々に配送する手間を考えると、インバウンドで体験を提供する難しさがあると感じた ➲ 例えば、その場で持ち帰ることができる手土産があるほうが、満足度を高めるのかもしれない

４．甘木鉄道×婚活イベントの実施結果

（１）概要

甘木鉄道とその沿線地域を利用した婚活イベントを実施した。婚活イベントに地域資源を盛り込んだプログラムとすることで、甘木鉄道とその沿線地域を知ってもらうきっかけとした。また、マッチングしたカップルに、地域で利用することのできる「元気ばい！あさくら復興応援券」をプレゼントすることで、甘木鉄道沿線への再訪を促した。

■プロジェクト概要

鉄道名	甘木鉄道株式会社	地域団体等	ガイドクラブ(甘木地域)
プロジェクト名	夫婦くすのき参り♡ あまてつコン	協力会社等	エフコネクト株式会社
日時	2018 年 3 月 4 日(日) 11:00～18:10	参加対象	福岡都市圏等に居住する出会いを求める独身の男女(男女各10名)
場所	甘木鉄道　甘木駅周辺、小郡駅周辺、基山駅周辺　等	参加人数	20名（別途、スタッフ4名）
広報周知先	・婚活情報ポータルサイト ・エフコネクト社 WEB 媒体 ・エフコネクト社メルマガ ・facebook 広告	その他	マッチングしたカップルに、地域で利用することのできる「元気ばい！あさくら復興応援券」をプレゼントし、甘木鉄道沿線への再訪を促した

■プロジェクトの狙い

項目	内容
企画の新規性	・　婚活×鉄道という異なるコンテンツの複合化による集客 ・　鉄道沿線の資源をめぐるプログラムを入れることで、鉄道だけではなく地域振興につながる取組みを組成する
資源の掘り起こし	・　蒸し雑煮や縁結びの楠など地域特有の資源の有効性を検証する ・　歴史資源に限らず、利用者に魅力的な資源を発掘する
情報発信	・　婚活情報ポータルサイトやエフコネクトのネットワークを生かした鉄道利用者とは異なる層への情報発信を行う
地域での企画や受入体制	・　駅周辺の飲食店やお菓子屋と連携した取組みとして、地域と連携した受入を試行する

■プログラム

時刻	内容	交通機関等	場所
11:00	●基山駅集合・点呼	―	基山駅西口
11:18	○移動（基山駅→甘木駅） ・通常の列車に 1 両接続して婚活用の専用車両を用意 ・自己紹介タイム	甘木鉄道	電車内
11:45	●甘木駅　到着	―	甘木駅
12:00	●ランチタイム ・朝倉の郷土料理「蒸し雑煮」でランチ会 ・蒸し雑煮の説明(違い・特徴)	徒歩	鷹陣
13:00	●甘木駅周辺散策 ・2 チームに分かれて買い物交流 ・4 つのお菓子屋さんで、予算を決めてプレゼントを探す	徒歩	甘木駅周辺
13:45	●パワースポットにお参り ・安長寺(女楠)須賀神社(男楠)にお参り ・ガイドクラブより由来を説明	徒歩	安長寺 須賀神社
14:52	○移動（甘木駅→小郡駅）	甘木鉄道	電車内
15:11	●小郡駅　到着		
15:25	●カフェタイム ・カフェで休憩、交流タイム	徒歩	Cotton's breakfast & Co.
16:50	○移動（小郡駅→基山駅） ・通常の列車に 1 両接続して婚活用の専用車両を用意	甘木鉄道	電車内
16：57	●基山駅　到着	―	基山駅
17:10	●カップリング ・甘木駅周辺で購入したプレゼント交換 ・カップルの連絡先の交換 ・参加者アンケートの記入・回収 ・カップルになった人には、朝倉で使える「元気ばい！あさくら復興応援券」をプレゼント。次回の訪問に繋げるねらい	徒歩	基山フューチャーセンター
18:10	●解散	―	基山駅

（２）実施の様子

自己紹介タイム

蒸し雑煮ランチ

買物交流の様子

甘木駅周辺の散策

安長寺・須賀神社

安長寺・須賀神社

カフェタイム

プレゼント交換の様子

カップリングの様子

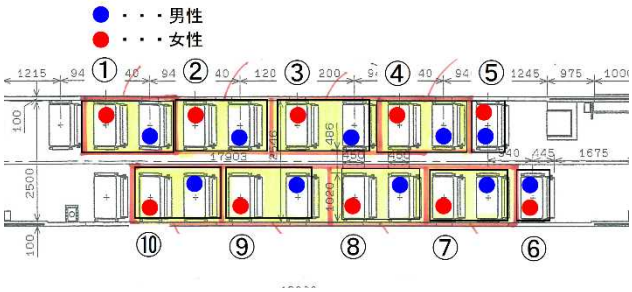
（３）当日実施レポート

各イベントの詳細は、以下の通りである。

①自己紹介タイム（貸し切り車両内）

参加者男女が１対１で着席し、約２分間の自己紹介交流を行った。受付で名札、プロフィールシートを配り、交流時はプロフィールシートを交換して話をした。

婚活専用列車内の様子

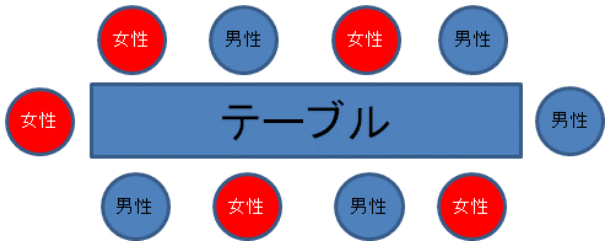


婚活専用列車内の席順

②ランチタイム（鷹陣）

男女 10 名､9 名の２グループに分かれて蒸し雑煮を含むランチを楽しみながら交流を行った。男女交互に座り、途中 30 分で男性のみ席替えをし、同じグループ内で全ての異性と話せるようにした。

ランチの様子



③買物交流

男女のグループ替えを実施し、新しい２グループに分かれて買い物交流をした。1 グループ予算 4,000 円を元にマップ内に記載された菓子屋で買い物を楽しんだ。

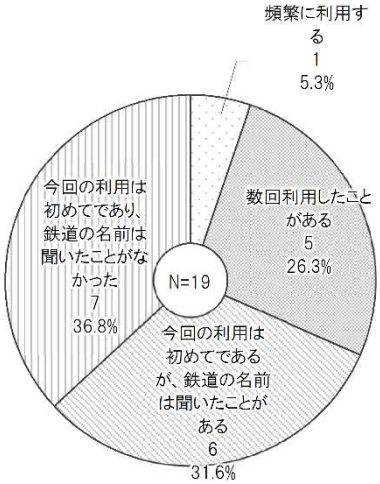
（４）参加者アンケートの結果

本イベントの参加者に対して参加した感想や意見のほか、本イベントを今後観光商品化していく上での課題等を調査した。その結果は、以下の通りである。

■「甘木鉄道」に関する設問

問１　これまでに平成筑豊鉄道を利用したことはありますか。

「今回の利用は初めてであり、鉄道の名前は聞いたことがなかった」が 36.8%で最も多い。次いで、「今回の利用は初めてであるが、鉄道の名前は聞いたことがある（31.6%）」となっている。



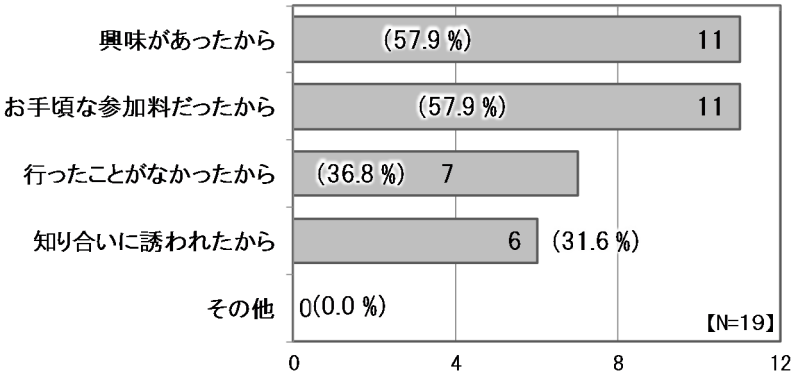
問２　問１で「1」「2」と回答された方、どのような用途で利用されましたか。（複数回答）

用途	件数
通勤･通学	0
観光	5
ビジネス	2
その他	1

■「本イベント（夫婦くすのき参り◎あまてつコン）に関する設問

問３　このツアーに申し込まれた理由をおしえてください。（複数回答）

「興味があったから」と「お手頃な参加料だったから」が 31.4%で最も多い。詳しくは、「婚活中だから」と回答した人が最も多い。

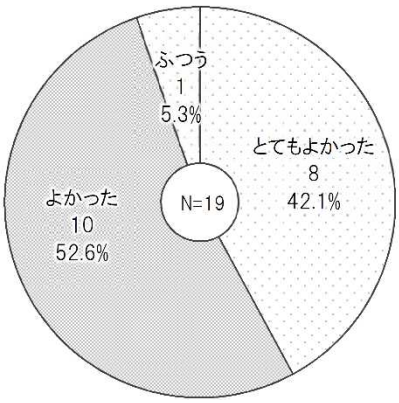


項目	件数
鉄道好き	2
婚活中だから	5
地元だから	1

問４　本イベントはいかがでしたか。

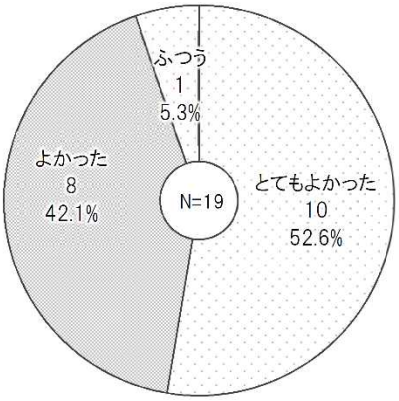
①あまてつコン（まちあるきをしながらの婚活イベント）

「よかった」が 52.6 と最も多い。次いで「とてもよかった」が 42.1%となっており、「よかった」と回答した人が 9 割以上となっている。



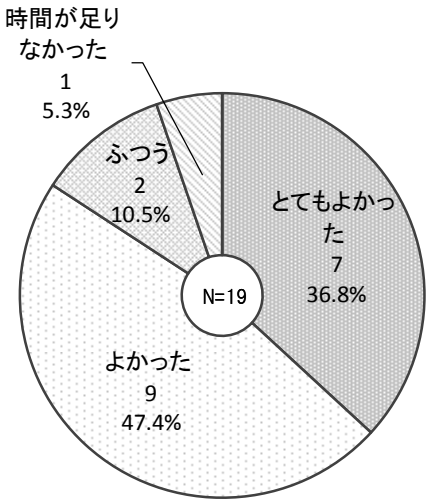
②貸切列車の使用

「とってもよかった」が 52.6 と最も多い。次いで「よかった」が 42.1%となっており、「よかった」と回答した人が 9 割以上となっている。



③タイムスケジュール

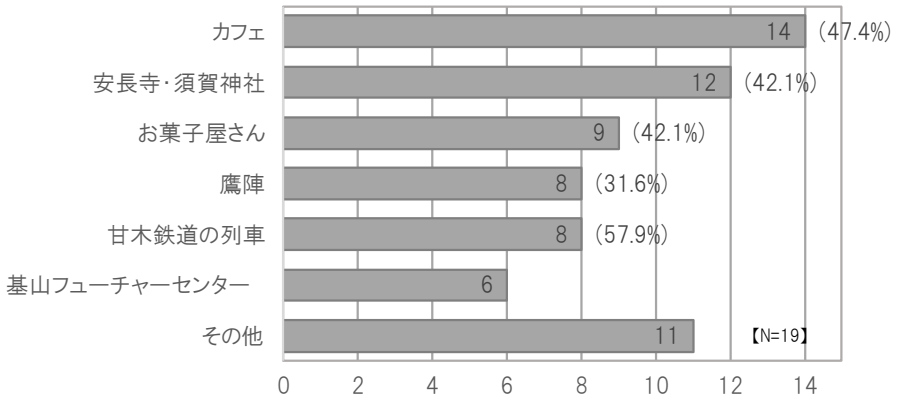
「よかった」が 47%と最も多い。次いで「とてもよかった」が 37%となっており、「よかった」と回答した人が 8 割以上となっている。



問５　訪れて「よかった場所」と「その理由」を教えてください。（複数回答）

「カフェ」が 20.6％で最も多い。次いで、「安長寺・須賀神社」17.6％となっている。

【よかった場所】

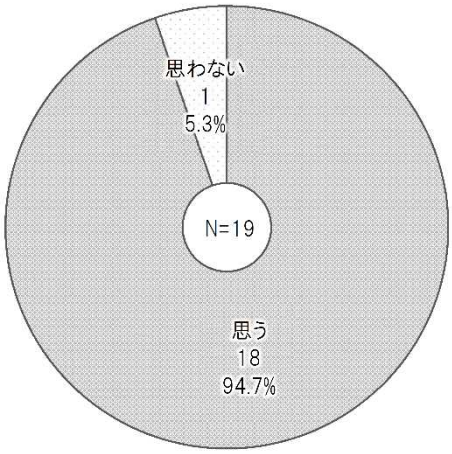


【理由】

理由
知らなかったので知る事ができてよかった
スタッフの方々、今日はありがとうございました。
ゆっくりくつろげた。パンケーキおいしかったから。大楠のパワースポットが想像以上だった。
ゆっくりできた。パンケーキおいしくて、話もできた。
観光ができて楽しかった。
暑かったので歩くのは大変でしたが良かったです。
お菓子屋さんは行った事がない所ばかりで楽しかったです。お寺と神社は楠木からパワーをもらえた。おみくじも大吉だったので。甘鉄はローカル感がよかったです。
もう一度来てみたいと思う場所が多かったです。
食事にボリュームがあり、美味しかった。ガイドさんのお話がきけておもしろかった。パンケーキもたくさん食べられたので・・・
共同作業感がよかった。婚活！ていう感じの場所
久しぶりに駄菓子屋さんに行けて楽しかった。料理もおいしくておなかいっぱいです。

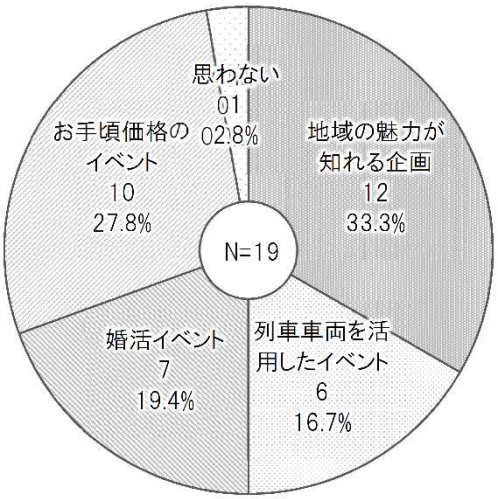
問６　本イベントを通じて、また甘木鉄道や沿線地域に訪れたいと思いますか。

「思う」が 94.7％で最も多い。



問７　問６で「１．思う」と回答された方、どのような企画に参加したいと思いますか？

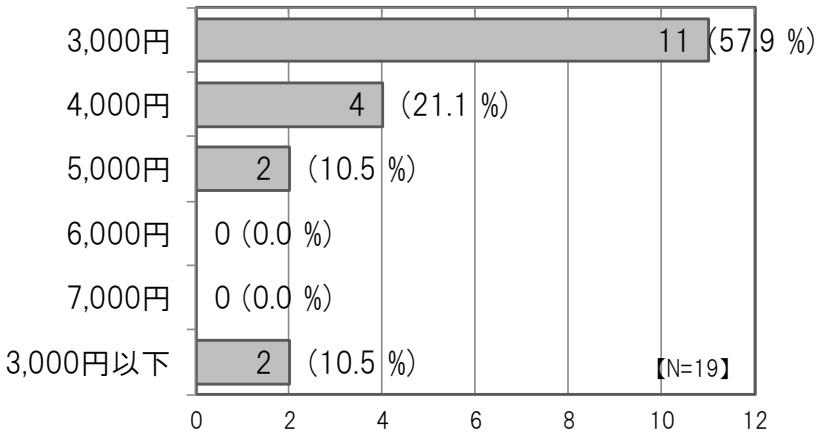
「地域の魅力が知れる企画」が 33.3%で最も多い。次いで「お手頃価格のイベント」が 27.8%となっている。



■本イベントを今後、観光商品化していく場合の課題等について

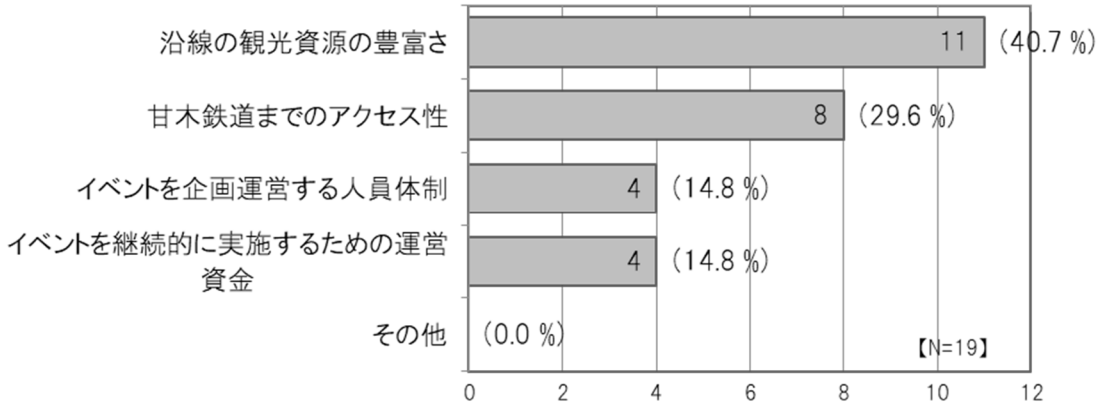
問８　今回のようなイベントを今後同じ内容で実施するとした場合、いくらまでなら参加したいですか。（食事代等 込）

「3,000 円」が 57.9%で最も多い。次いで「4,000 円」21.1%となっている。



問 9　今回のようなイベント行う上で、地域と鉄道事業者等が連携をし、継続的な企画検討・観光商品化を行っていくことが重要となります。その上で課題となりそうなことはどのようなことですか。（複数回答）

「沿線の観光資源の豊富さ」が 40.7%で最も多い。次いで、「甘木鉄道までのアクセス性（29.6%）」となっている。



問 10　その他、本イベントに対する感想をお教えください。

自由意見
男女共に参加者・スタッフさいこうです。また、参加させて下さい！
プレゼント交換って必要？？
スタッフさんの心使い、司会進行が良く、すぐに打ちとけることができた。満足のいく 1 日でした。ありがとうございました。
最初から最後まで、1 日通じて楽しかった！！ありがとうございました
2 人でゆっくり話をする時間が少ない。全体行動中はゆっくり話せない為。スタッフの心使いは良かったです！スタッフも単独な人を見つけたら、声を掛けてアドバイスしていただけたらもっと良くなるでしょう！
スタッフの方の感じがすごく良かった。
長い時間たくさん交代もあり、全員とほぼ話ができたからよかった。観光もできて楽しかったです。
今日は、甘木鉄道に初めて乗車し、甘木鉄道のよさを婚活のイベントを通じて知れたのでよかったです。参加している方々とお話しができて楽しかったです。
今日は気温が高かったので歩きには少しつらかった・・・けどそれ以外は大満足です！これで 2,500 円は安すぎるなーと思いました（笑）またこういったイベントがあれば参加したいと思いました。
今回は天気が良くて動きやすかったです。これから暑くなるとちょっと・・・と思いますが藤の花が咲く頃にも行ってみたいです。楽しかったです。ありがとうございました。
基山駅は JR も通っているし、博多から 30 分程度なので来やすかったです。時間帯も早すぎず、参加しやすくて良かったです。スタッフのみなさんの細かい心配り、ちみつなプログラミングで本当に楽しいイベントでした。婚活じゃなくてもこの位の値段で甘木鉄道を利用する 1 日イベントがあれば利用したい人はたくさんいると思います。普段は訪れる機会のないエリアを地元の人と一緒にめぐるツアーは町の活性化にもなるし、参加者にとってもプラスだと思います。是非今後も続けられて下さい。ありがとうございました。
晴れてよかった。話をしながら歩いたり、買い物をすることが出き、楽しかった。年齢、職業など会ったことのない方に会えてよかった。
たくさんの方と長くお話しができ楽しかったです。ありがとうございました。

（５）実施結果

（１）～（４）の結果を踏まえ、鉄道事業者、地域、利用者目線で本イベントや、今後、観光商品化を図っていく上での気づき等を以下にまとめる。

■各主体目線での気づき等

鉄道事業者	・ 甘木鉄道が位置する福岡県南地域は、博多エリアはもとより近隣市町村から比較的アクセスが良いため、集客を行う上で強みとなる ・ 甘木鉄道の運営に詳しいスタッフが、当日の専用車両の運行に同行したため、他の乗客の乗り降りがスムーズにできた ・ 甘木鉄道の協力により、既存車両に連結して貸し切り列車を運行することができたため、既存ダイヤを変えずとも実施可能な企画であることが分かった ・ 鉄道の運行のダイヤが決められているため、甘木駅から小郡駅までのトイレ休憩の時間を確保することが難しかった ・ 乗車時間が短かったため、乗車中は自己紹介の時間にあてたが、車窓からの眺めを楽しむ時間がなかった
地域 （住民・行政）	・ 須賀神社と安長寺の歴史についてのガイドではなく、須賀神社の縁起物の話や、須賀神社のパワースポットなど、婚活に関係のあるガイドが参加者に好評であった ・ これまで交流の無かった地域のプレイヤー同士が婚活イベントを介して知り合うきっかけとなった ・ 地域の店舗と連携したイベントで、事前に店舗側にも協力を依頼していたが、店員が実施していることを知らなかった ・ 店舗側は来客が増えることは歓迎しており、連携を強化することで、より積極的なおもてなしができる可能性がある ・ 地域が見せたい資源と観光客が見たい資源や聞きたい話には、ギャップがあることを認識することができた
利用者	・ 参加者は、地域の魅力を知ることのできるイベントを好む傾向にある ・ 蒸し雑煮など、地域特有のものは参加者も興味を示すため、わかりやすく伝えることが必要 ・ 参加者は 3,000 円程度の参加費だと、手頃なので参加してみたいと感じている ・ 参加者は、婚活に来ているのであって、甘木に来ているわけではない。参加者の好みそうなルート設定か、地域の魅力を効果的に伝える工夫が必要 ・ 協力を呼びかけた店舗以外にも参加者が興味を持った店舗があったため、地域の魅力の掘り起こしの可能性がある ・ 婚活というコンテンツによって、北九州市など遠方からの集客が可能となった
成果	➲ 婚活というコンテンツによって、これまで、甘木鉄道やその沿線に訪れたことのない人、鉄道や甘木に興味のない人をターゲットとして呼び込むことができる ➲ 貸し切り列車や乗車までのサポートなど、取組みに合わせたサポートができた。鉄道事業者の協力は不可欠である ➲ 地域の店舗やガイドと連携して実施することで、蒸し雑煮など地域の魅力を伝えることができ、参加者にもここでしかできない体験は効果的なことがわかった ➲ 鉄道事業者を含め地域のプレイヤーが目的を共有し、取組むことで、おもてなしの質の向上や効果的な取組みの実施につながる可能性があるため、一同に会する機会や場の設定が必要である。 ➲ 団体ツアーを実施する場合は、スケジュールがずれこむ可能性を念入りに検討する必要がある
課題	➲ 地域が持っている「価値」を洗い出し、それを観光に繋げるための資源の磨き上げが必要である ➲ 必要経費分の利益しか収入が得られない場合においても、事業実施の目的や実施していく上での問題・課題を共有し、それを次の企画に活かしていくことのできるプロセスをとることが必要である ➲ 企画を進めていく上で、鉄道事業者や地域プレイヤーが連携することが重要であるため、イベントの企画・実施、その後の見直しというプロセスについて共通認識を持ちながら進めていく体制づくりが必要である

５．甘木鉄道×インバウンドの実施結果

（１）概要

朝倉グリーンツーリズム協議会が企画するインバウンド向けのモニターツアーにおいて、今後の FIT（個人手配の訪日外国人旅行者）の増加を予想して、福岡市から朝倉市まで公共交通を使って来訪できるかの検証として、行きを JR と甘木鉄道を乗り継いで来てもらうプランで試行を行った。

なお、朝倉グリーンツーリズム協議会は、農家民泊を提供する家庭が集まってできた組織のため、今後の連携した商品の造成や、サイクリングで連携するあさくら観光協会との連携を見据えて、地域としての受け入れを推進していく契機とする。

■プロジェクト概要

鉄道名	甘木鉄道株式会社	地域団体等	朝倉グリーンツーリズム協議会、あさくら観光協会
プロジェクト名	甘木鉄道×インバウンド 農泊体験ツアー	協力会社等	合同会社みずトランスコーポレーション（通訳）
日時	2018 年 2 月 17 日(土)8:00 ～18 日(日)16:30	参加対象	福岡市内に短期滞在中の外国人
場所	朝倉市内	参加人数	8名(別途、スタッフ8名)
広報周知先	SNS を通じた募集	その他	参加者には、撮影した写真等を SNS での拡散を要請(#asakura)

■プロジェクトの狙い

項目	内容
企画の新規性	・ 今後の FIT 増加をにらんで、1 次交通としての公共交通（鉄道）の可能性を検証し、課題を把握する
資源の掘り起こし	・ 朝倉がこれまで取組んできた農泊事業と新たなターゲットになるインバウンドの融合企画の可能性を調査する ・ 特に、外国人にとって、農泊が魅力的なコンテンツであるか評価を確認するとともに、地元の外国人への対応ができるかお試しの機会とする
情報発信	・ 朝倉でしかできない体験を、SNS やホームページなどを用いて情報発信してもらう
地域での企画や受入体制	・ 地元協議会が主体となって、モニターツアーの企画・準備を行う練習とする ・ また、今後の観光協会や鉄道会社と連携したツアーの商品度造成につなげる

■プログラム

（１日目）

時刻	内容	交通機関等	場所
8:00	●JR 博多駅 集合・点呼	―	博多駅
8:12	○移動（JR 博多駅→JR 基山駅）	JR 九州	電車内
8:51	○移動（甘木鉄道基山駅→甘木鉄道甘木駅）	甘木鉄道	電車内
8:12	○移動（甘木駅→秋月コミュニティセンター） ・注意事項、参加者紹介	バン	車内
9:50	●オリエンテーション・着付け体験 ・開催趣旨、会長の挨拶、関係者の紹介 ・男女に別れて着物の着付け	―	秋月コミュニティセンター
11:00	●古都秋月 城下町散策 ・秋月コミュニティセンター～黒門茶屋（昼食）～秋月歴思堂(お雛さま見学)～杉の馬場（写真撮影） ・昼食は、朝倉名物蒸し雑煮	徒歩	秋月周辺
13:00	●筑前秋月和紙・お雛さまづくり体験 ・伊田商店街、石炭記念公園、風治八幡宮　等	―	久助ギャラリー
14:00	●弓道体験	―	篠原さん宅
15:00	●入村式 ・受入家庭との面会（その後は各家庭で体験・夕食）	―	篠原さん宅

（２日目）

時刻	内容	交通機関等	場所
9:45	●三連水車の里あさくら 集合・離村式	―	三連水車の里あさくら
10:00	●自転車で周辺をぶらり散策（うきは白壁＆朝倉農業遺産コース） ・ガイド紹介、コースガイダンス、自転車レクチャー ・筑後吉井白壁広場～白壁の町並み～原鶴温泉～山田堰～筑後川サイクリングロード～三連水車	自転車	うきは市・朝倉市周辺
12:25	●アップルパイの店林檎と葡萄の樹（昼食）	―	林檎と葡萄の樹
13:45	●昇龍大観音 拝観・眺望	徒歩	昇龍大観音
14:30	●道の駅原鶴バサロ 買い物・お別れ	―	道の駅原鶴バサロ
15:00	○移動（道の駅原鶴バサロ～博多駅） ・車内でアンケート記入	バン	車内
16:30	●博多駅 解散	―	博多駅

■参加者の属性

No	国籍	性別・年代	属性	関係
1	イタリア	女性・20 代	福岡市内の企業でインターンシップ中	母国が同じ友人関係
2	イタリア	女性・20 代	福岡市内の企業でインターンシップ中	
3	メキシコ	男性・20 代	日本語学校の留学生	母国・学校が同じ友人関係
4	メキシコ	男性・20 代	日本語学校の留学生	
5	フィンランド	女性・20 代	大学の留学生	友人関係
6	スウェーデン	女性・20 代	専門学校の留学生（福岡 NOW ライター）	
7	オーストラリア	男性・10 代	観光で福岡に短期滞在中	夫婦関係
8	オーストラリア	女性・10 代	観光で福岡に短期滞在中	

（２）実施の様子

基山駅で JR から甘木鉄道へ乗換中

車内では会話や風景を楽しみながら移動

着付けをしてくれた池田屋さんにて

秋月黒門では全員で記念写真

篠原さん宅では弓道を体験

入村式では 4 軒の受入家庭と面会

各家庭ではオリジナルな体験を提供

離村式では感動的なシーンも

再開を約束して受入家族とはお別れ

三連水車の里あさくらで集合写真

ガイドのアテンドでサイクリング

復興のシンボルとなる三連水車を見学

写真を撮って SNS にもアップ

農泊ツアーを企画した協議会のメンバー

道の駅原鶴バサロでお別れ

（３）参加者配布用のツアー行程表

17 (Sat)-18 (Sun) February 2018
Asakura Farm Stay Tour Program

1st day, Saturday 17th February

Time Activity

8:00 Meeting at Hakata Station, Chikushi Gate, in front of Mister donuts,
the destination will be reached by train: MIZU will attend.
train departing at 8.12 from Hakata, arriving at Kiyama Station at 8.38
Then train departing at 8.51 from Kiyama Station,
arriving at Amagi Station at 9.18 and Transfer to Akizuki by Minibus

9:50 Kimono dressing

11.00 Strolling around the small castle town of Akizuki,
so-called "Small Kyoto in Kyushu"

Lunch

Hina doll making with Japanese paper

14:00 Archery experience instructed by one of
Host-families (Mr. Shinohara)

15:00 Meeting with the host family, farm stay
Note: Wi-Fi is not available at the farmer's house

<Host Family Info.>
Saviana & Lulu @ Morooka-san Family (2 adults)
Migel & Jan @ Shinohara-san Family (2 adults + 1 elderly)
Ludi & Johanna @ Okabe-san Family (4 adults + 1 infant)
Ai-chan and Seton @ Hayashi-san Family (2adults + 1 child + 1 infant)

2nd day, Sunday 18th February

Time	Activity
	Breakfast with family
9:45	Goodbye host family
10:00	Bike riding starts from Yoshii town

12:25	Lunch at Cafe, Apple Curry Rice and Apple Pie
13:45	Visiting mountain top temple by car
14:30	Shopping at Fresh Farmer's Market

16:30	Back to Hakata Station by minibus

Cost: Free
Notes: - please bring towels, toothbrush and nightwear
-please wear warm and casual/weather appropriate clothes for cycling and walking.
-if you have any food allergy, please let us know in advance
-please kindly understand that photographers or Government officers might come to interview the participants. Some photos might be used for a promotional purpose.
-schedule might change due to heavy snow or rain.
Contact: Ms. Mizuho Mizutani
Email: mizutani@mizu-trans.jp **Phone:** 090-2856-6988 or 092-408-9277

MIZU TRANS CORPORATION
1-14-1-302 Shiobaru, Minami-ku, Fukuoka JAPAN, 815-0032 TEL +81(0)92-408-9599
website http//mizu-trans.jp E-Mail: mizutani@mizu-trans.jp

（４）ツアーレポート

Japan Journal – 日本日記

Notes from an exchange year in the land of the rising sun

HOME ABOUT CONTACT

Weekend in Asakura

FEBRUARY 23, 2018 ~ LUDI

Last weekend Johanna and I had an exciting opportunity to stay in Asakura for two days as part of a tour trying to promote tourism in the region. We gathered at Hakata station in central Fukuoka early Saturday morning, and met the fellow participants for the first time. All eight of us were international students or workers looking to learn more about Japanese culture. Departing from the busy Hakata station, the train took us to Kiyama, and from there to the city of Akizuki.

The train to Akizuki

朝倉で過ごした週末

先週末、ジョアンナと私は地域の観光促進の試みとして、朝倉に２日間滞在する心躍る機会があった。私たちは、土曜の早朝に福岡の中心地である博多駅に集合し、参加者たちと初めて対面した。私たち８人の留学生は、日本文化についてもっと学ぶために仕事を探している人たちである。乗客数の多い博多駅を出発した電車は基山駅に到着し、そこから朝倉市の秋月へと向かった。

Kimono

Our first activity of the day was dressing into kimono. I have never come across a costume that is so complex to wear. Between the "underwear" layer and the outerwear layer, there were several elastic bands holding the dress together. After folding the outer layer to the appropriate length, the whole dress had to be sealed with a belt, obi, that was attached using strips of fabric and towels. It took a good 10-15 minutes and an experienced personal "dresser" to put on a kimono properly. My favourite part of the costume is probably the obi which holds the dress together, looks nice from the back and keeps your tummy warm.

After everyone has finished dressing up, we took a short along one of the main streets of Akisuki. It was surprisingly challenging to walk in a traditional dress coupled with geta, traditional sandals: I could only take small steps and had to be really careful that the footwear did not fall off. It was interesting how a costume can affect your gestures more broadly though, I felt like my posture improved because of the obi and also found myself handling dishes more carefully because of the big sleeves.

Paper workshop

After the kimono experience, we headed for our next activity, a paper craft workshop. Because of the ongoing festival, we were taught to make a pair of rabbit-themed hiina dolls using locally produced paper. Paper seems to have always played a central role in crafts and art in Asia, from paper-cutting and origami to calligraphy and paintings. For me this particular craft also seemed rather Japanese in that it was small in size and there was a lot of nitty-gritty.

着物

私たちの1日の活動のはじまりは、着物の着付けだった。私は今まで着物は着ることが複雑な服装であると思っていいた。肌襦袢と長襦袢の間をいくつかのゴム紐で一緒に結ぶ。そのあと、一番上の着物を折り重ね、ほどよい長さにする。一体になった着物を帯というベルトで覆う。帯は細長い布とタオルで付けられる。10分から15分で着物の着付けを体験する素敵な時間だった。私がお気に入りの着物の部分は、おそらく帯の部分である。帯は着物を保ち、後姿を美しく見せ、おなかを暖かくしていてくれる。

着付けの後に、みんなで秋月の主要な通りを少し歩いた。伝統衣装に伝統的なサンダルである下駄をあわせて歩くことは驚くほどに大変であった。私は小さくしか踏み出せず、靴下が離れないようにものすごく気を付けた。しぐさや動きが大雑把だと衣装に影響してくることが面白かった。私は自分の姿勢が帯によって良くなっているように感じた。また、裾が大きいために食べすぎに注意した。

紙のワークショップ

着物を体験した後、私たちは次の活動について聞いたらペーパークラフトのワークショップであった。私たちは地域が製造した紙を使って、2つのウサギの雛人形づくりを教えてもらった。開催中のお祭りだったからだ。紙は、アジアでは工芸やアートの中で、いつも中心的役割を担っており、遊びにも登場する。切った紙と、折り紙に文字を書いた。私には、この特殊な工芸は小さい中にたくさんの核心が含まれているという点において、まるで日本を象徴しているかのようであった。

Tea ceremony and archery

At around 2pm, we headed to the next location, the house of one of the host families. There, I attended a tea ceremony for the first time. Despite it being a shortened version of the full routine, the pace was really slow: each piece of equipment had to be cleaned carefully, the water had to be moved from one container to another. I found the slowness intriguing. Each move was, though small and gentle, very controlled and precise, as if the tea master was practising some form of martial art.

Later on, we also got to learn about kyudou, traditional archery. Again, the routine involved many many formal steps before actually shooting out the arrow, and each step looked really intense and carefully controlled at the same time. Afterwards, we had an opportunity to practise the basic movement with the bows (but without any arrows). Even this seemed to be a massive shortcut, as, apparently, students would typically spend weeks just practising the pose.

お茶会と弓道

2 時頃に、私たちは次の場所を聞いた。ホストファミリーの家だ。そこで、私は初めてお茶会に参加した。短いすべて決まった動きにも関わらず、とてもゆっくりのペースでそれぞれの準備や片づけを慎重にしていく。水はある容器から別の容器へ動かさなくてはいけない。私はそこに面白さを見つけた。お互いの行動は細かくて穏やかなものだが、正確に管理され、そのお茶の大家はまるで武術の型を練習しているようだった。

その後、私たちは伝統であるアーチェリーである、弓道を学びにいった。そこでもまた、実際に矢を放つまでに複雑な沢山の決められた動きが繰り返され、どの動きもいつどの時もとても真剣で注意深く管理しているように見えた。その後、私たちは基本のお辞儀と一緒に動き（といっても弓矢はなしで）を練習する機会を得た。すごい近道もあるように思うが、見たところ生徒たちは典型的な動きの練習をしながら一週間を過ごすようだ。

Meeting host families

After the archery session, we gathered into the dining area to meet our host families for the first time. Johanna and I were greeted by a friendly older couple, who often welcomed international visitors to their home. It was a shame my Japanese was only limited to very basic conversations, but it was interesting hearing the casual chatter between Johanna and our hosts throughout the evening and picking up things here and there. On the way back home, we stopped to see some relics of the earliest forms of housing in Japan. We also passed by a pet shop full of dogs, including Japan's famous shiba inu.

ホストファミリーとの話し合い

弓道の後に私たちはダイニングに集まり、初めて私たちのホストファミリーたちと対面した。ジョアンナと私は年配の気さくな夫婦に挨拶をした彼らは国際的な観光客を家によく受け入れている。私は日本語がほんの少ししかできずとても基本的な会話をしていたことが恥ずかしかった。しかし、ジョアンナやホストファミリーのざっくばらんな会話は面白く夜まで続き、今の場所から家までおくってもらった。いえに戻ると私たちはいくつかの最古の日本の家の遺跡に立ち寄った。私たちはまた、日本の有名な柴犬もいる、犬が沢山いたペットショップを通った。

Evening

Upon arriving at the home of our host family, obachan (auntie) taught Johanna and I to make sushi. We used a specialist fold to make oval rice balls from sushi rice, and added different types of fish and fried egg on top to make nigiri. We also filled some "bags" of sweetened tofu with sushi rice to make inari. However, my favourite is still the maki roll filled with egg and avocado which obachan had prepared in advance. Despite having stayed in Japan for close to five months now, this is only the second time when I have had sushi, and first time making it.

After dinner, obachan taught us to make chopstick stands using paper and cardboard. It was again a slow and focus-requiring process, wrapping the cardboard into paper and bending it in a particular way. I've started to notice how all the "traditional" things we have done or seen that day required patience, from dressing up to kimono and paper crafts to tea ceremony and archery, you simply could not rush. Several of these activities also involve sitting in seiza-style which proved to be a challenge for my legs after the first 5 minutes or so.

Day 2

It was cool waking up to the morning sun from a futon bed in a traditional Japanese room. It was also cold temperature-wise, but luckily we had special hot water bottles that kept the mattress warm the whole night. We tried making some onigerazu, a more "free-styled" version of onigiri, the traditional rice ball. Obachan also prepared us a particularly yummy breakfast which once more confirmed how seriously people take breakfast as a meal here in Japan. With the TV broadcasting Olympics news in the background, I started to get a feeling of what everyday family life in this country could look like.

夕方

ホストファミリーの家に着いてすぐ、おばちゃんはジョアンナと私に寿司の作り方を教えた。私たちは、特別に包んだ酢飯で作った楕円形の握り飯を使い、異なる種類の魚や卵焼きを握りの上に乗せた。私たちはまた"袋"に甘い豆腐や酢飯をいっぱいに詰め込んだ稲荷寿司も作った。しかし、私が一番好きなのはやっぱりおばちゃんが先に準備していた卵やアボカドがいっぱいの巻き寿司だった。現在日本に滞在して五か月が終わったにも関わらず、寿司を食べたのは二度目で作ったのは初めてであった。

晩御飯の後、おばちゃんは私たちに紙を使った箸置きとカードボードの作り方を教えてくれた。それはまたゆっくりで集中した課程が要求され、カードボードを紙で包んで特定の方行に曲げる。私はすべての伝統的な事がらは行動するか忍耐力が要求される。着物の着付けもペーパークラフトもお茶会も弓道もシンプルに急がず、またいくつかの活動では正座座りが必要で私の足の挑戦は５分かそこらだった。

二日目

日本の伝統的な部屋で布団から、朝日で目覚めた良い目覚めだった。また、気温的には低かったが、幸運なことに私たちは特別にお湯の容器をもっていて、マットレスは夜中のあいだ暖かかったままだった。私たちはおにぎらずという"自由な形"の伝統的なおにぎりに挑戦した。そしておばちゃんはまた日本の真面目な人々が食べる朝ご飯をもう一度用意してくれた。一緒にオリンピック出場選手の背景のニュースをテレビでしており、私は日本のらし毎日の家族の生活を感じ取り始める事が出来た。

Cycling

Gathering to a meeting point, we shared some experiences of our stay and finally said goodbye to our host families. We then got ready to our next activity: an 8 km tour around the city of Asakura by bike. This was my first time cycling in Japan, but the quiet town roads and clear instructions by our guide actually made the cycling process very enjoyable. It was nice having some quiet time cycling after a lot of socialising over the previous day. The mountain views were also pretty, but probably even more so when the cherry blossoms along the cycle paths come into bloom.

Lunch and final stops

After a final uphill ride, we parked our bikes and arrived at the lunch restaurant. On menu, we had a hearty apple curry and apple pie, just in time after the exercise. We then headed to the nearby mountain top which opened a full view of Asakura below. There was also a small temple area where we stopped briefly, before progressing to the final stop of a roadside farmer's market. After shopping some local goods, we finally said goodbye to the trip organisers and began our journey back to central Fukuoka.

Overall, it was a lovely experience spending a weekend in the countryside, even though our programme had quite a few modernised aspects. I was lucky to try several activities for the first time and take away many things, from new vocab to the importance of doing things slowly. I was also touched by the friendliness of people and the general welcoming atmosphere.

Parts of Asakura are in fact still recovering from the heavy flooding last summer. We visited some of the affected regions with our host family, including broken buildings, wasted rice fields and wood trash carried by the mud slide to all over the places. While sobering, it was also heart-warming seeing how communities came together in restoring and rebuilding, as well as welcoming visitors such as us to their homes in spite of all this. It was a privilege having had the opportunity to be here.

サイクリング

合流地点に集まって、私たちは自分の滞在中の沢山の経験を共有し最後に私たちのホストファミリーにさよならを言った。私たちは次の活動である自転車で朝倉市を８ｋｍ観て回る準備をした。これが私の日本で初めてのサイクリングだったが、街の道路とは全く違った。そして私たちのガイドによる明確な指示のおかげでサイクリング中をとても楽しませてくれた。そのサイクリングの時間のあと沢山の今までの社会の事をきいた。そしてまた山の景色はかわいいがおそらくもう少ししたら桜がさらに咲き誇るだろう。

昼食と最終地点

最後の丘を登り、私たちは自転車を止め、昼食をとるためにレストランに到着した。メニューには、私たちはヘルシーリンゴカレーとアップルパイを運動の後に食べた。そのとき私たちは近くの山の頂上から開けた朝倉市の下の眺めがひらけた。最終地点である道路沿いにある農産物市場へ進む前に、小さなお寺の地域があって私たちは少し止まった。いくつか特産物を買った後に、最後にこの旅行の主催者とお別れをして私たちは福岡の中心地へと戻った。

まとめとして、私たちは現代的な毎日にも関わらず、田舎での素晴らしい経験をして過ごした週末だった。私はいくつもの初めての活動に挑戦し、新しい言葉からゆっくりした動きの重要性まで多くの事を身に着けることができた。そしてまた私は人々の友好さと優しい歓迎の雰囲気に触れた。

朝倉市の一部はまだ去年の夏の大洪水による修復をしている。私たちが訪れた魅力的なホストファミリーの集落も建物が壊れている。田がダメになり廃材が泥によってあちらこちらに運ばれた。悲劇の間、地域が一丸となって回復させ再建築させるという心温まることがあった。このような事があったとしても、彼らは同じように訪れた人を歓迎してくれるのだ。これはここを訪れた人に与えられる特権である。

（５）参加者アンケートの結果

本ツアーの参加者に対して参加した感想や意見のほか、鉄道の利便性、アクティビティの評価、本ツアーを通じて感じた朝倉エリアの魅力などを調査した。その結果は、以下の通りである。

	Q.　電車（甘木鉄道＆JR）について
1	Price of train a bit steep. More public transport to explore. 電車料金が若干高く感じる。もっと公共交通機関を使っていろんな所へ行きやすくなるといい。
2	If you want tourists, please have station signs in English! 外国人観光客のためには、駅に英語の看板や表示があったほうがいい。
3	It would be better to make easier to follow the indications もっと指示や表示がわかりやすければいいと思います。
	Q.　どのアクティビティが一番よかったか？ ※上位回答：着物、サイクリング、秋月散策、農泊、弓道
1	It was my first time and there is rarely such opportunity elsewhere. 初めての経験ばかりでした。他では体験できない貴重な機会をいただきました。
2	Very interesting, original Japanese food, beautiful place. とても面白かった。伝統な日本の食べ物、美しい場所や景色など。
3	I enjoyed walking around in a kimono. I felt like a samurai. 着物を着ての散策が楽しかった。侍（サムライ）みたいでした。
4	I’ve been wanting to try that for a long time. Wearing kimonos was also fun. 弓道を何年も前からずっとしたかったが、やっと実現した。着物の着付けも楽しかった。
5	It was fun, a good source of exercise and interesting! サイクリングは楽しく、いい運動にもなり面白かった。
6	Great areas, only the mountain part was heavy to do. 景色が素晴らしい地域だった。サイクリングの最後の登りがちょっときつかった。
7	I felt special while walking around in a kimono. It was nice to cycle after a very long time. 着物を着て散策しながら、「スペシャル！」だと感じました。サイクリングも、久しぶりだったので新鮮で楽しかった。
	Q.　次回やってみたいこと
1	Climbing a mountain or onsen perhaps. 山登りや温泉かな。
2	Everything we did was just fine. 全部楽しかった。
3	Working on farm. Zero Sen museum! (Plane Museum) 畑で農作業して、ゼロ戦ミュージアム（太刀洗平和祈念館）に行きたい。
4	I would have liked to go to an onsen! 温泉に行きたかった。
5	Ichigo picking! いちご狩り！
6	A party at night with all the hosting families. ホストファミリーと夜のパーテイー。
7	Traditional musical instruments demonstration 和楽器演奏。

Q.　農家民泊で困ったこと	
1	Language but it was very good listening practice. 言葉の面。でも、聞き取りのいい練習になりました。
2	No difficulties, everything was perfect. 全く問題がなかった。全て完璧でした
3	I hadn’t many difficulties, except for food. I don’t always like the Japanese food. 食べ物以外はほとんど問題ありませんでした。和食がどちらかというと苦手なので。
4	I actually didn’t have any struggles at all! 困ったことは全くなかった。
5	Hoping that we weren’t rude! 失礼なことをしていないことを祈ります。
6	Not having Wi-Fi Wi-Fi がなかったこと。
7	The manners differences and sometimes language マナーの違い。言葉の面も少し困った。
Q.　民泊先の食事はどうでしたか?	
1	Amazing homemade food! 食べ物は全て手作りで素晴らしく美味しかった。
2	Delicious and fresh food. 食べ物が新鮮で美味しかった。
3	I don’t like seafood! シーフードが苦手でした。
4	We were served a lot of typical Japanese dishes, which fit in well with the rest of the tour. ツアー中いろいろな日本の伝統な料理をたくさんいただき、とても印象的でした。
5	The hospitality we experienced was great, host mother made delicious food! おもてなしが素晴らしかった。民泊先のお母さんが美味しい食事を作ってくれました。
6	Many excellent things, dinner and breakfast were great. いろいろな美味しい食べ物があった。晩ごはんと朝ごはんが特に美味しかった。
7	I learned a lot of things about Japanese cooking 日本料理についていろいろなことを学ぶことができた。
Q.　他にない、あさくらの魅力	
1	We went to see the historical ruins with the host family. ホストファミリーと一緒に歴史的な遺跡を見に行きました。
2	Desserts that can be found only here. ここだけにしかないお菓子。
3	Wearing kimono in a Japanese old city 古い日本の街並で着物を着て散策したこと
4	It was cool to see how hard people have worked to restore the city. 水害から復興するため、住民が一生懸命取り組んでいるのを見ることができ感動した。
5	The peacefulness of Asakura’s farms and nature. のどかな朝倉の田畑と自然の静寂。
6	The small oranges, they are so good! ミカンがとても美味しかった。
7	The beautiful landscapes きれいな景色。
8	Don’t know about all areas of Japan but Asakura’s nature was really impressive. 日本の全地域を知っているわけではないが朝倉の自然は本当に見応えがあり感動する。

Q.　もう一度あさくらに来たいですか？	
1	It would be nice to return during sakura season 桜の季節に来られたら、素晴らしいでしょう。
2	A wonderful and natural place, very relaxing. 素晴らしくて、自然豊かな場所。本当にリラックスできる。
3	It was beautiful and far away from busy city. きれいで、賑やかな都市部の喧噪から離れていてよかった。
4	It was so pretty! I want to try out more foods and see the sakura there. 本当にきれいだった。もっといろんな食べ物を食べたり、桜も見たい。
5	I want to see my host family again! ホストファミリーとまた会いたい。
6	Great host families, nice activities. ホストファミリーは素晴らしい家族だった。アクティビティが楽しかった。
7	I feel like this town is full of surprises. この町はサプライズの宝庫だと思います。
Q.　またあさくらに来るとしたら、どのくらいの期間がいいか？	
1	I enjoyed staying with a family. ホームステイがとにかく楽しかった。
2	I loved it. 楽しかった。
3	I want to explore this city! この町をもっと巡ってみたい。
4	Since it’s a small city, I think 2 days are enough to explore it. 小さい町だから、2 日間で十分だと思います。
5	I would love to work on my host’s farm! ホストの農場や畑で働いてみたいと思います。
6	1-2 days are enough. 1～2 日間で十分だと思います。
Q.　通訳がいなくても楽しめると思うか？　※全員“Yes”と回答	
1	It would require a lot of gestures, but people here are friendly and patient. ジェスチャーが必要でしょうが、地元の方々は皆きさくで、忍耐強く待ってくれます。
2	I can practice my Japanese even more. もっと日本語の練習ができると思う。
3	English is minimal for country town 田舎なので、英語がほとんど話されていない。
4	Yes I do, but it was definitely fun to get a guided tour and learn a lot! 楽しめると思うけど、ガイド付きツアーをしてもらったおかげで、いろいろなことを学べたと思います。
5	I know enough to get around. 自分の場合は、町を巡るぐらいなら何とかなると思う。
6	Without an interpreter it would be extremely difficult 自分の場合、通訳がいなければかなり難しいと思います。
7	A good chance to improve my Japanese. 日本語が上達するチャンスだと思います。
8	I am here to practice Japanese so experiences like this are very useful 日本語の練習をする目的で日本に来ているので、貴重な経験になると思います。

Q.　あさくらのグリーンツーリズムやどんな事を友人や家族に紹介したいと思いますか?	
1	People are kind, good opportunity to experience typical Japanese countryside. 人々が親切。伝統な日本の田舎に触れるチャンスがここにはあります
2	So they can come and see themselves how wonderful it is. ここの素晴らしさは、ここに来て自分の目で確かめてほしい。
3	Because it’s beautiful! とてもきれいな場所なので勧めます。
4	It was great and I had a lot of fun. 素晴らしくて、本当に楽しかった。
5	It is a good experience! いい経験だった。
6	Great activities and awesome people アクティビティが素晴らしくて、スタッフの皆さん「すごい」の一言でした。
7	Because it’s a good experience for nature, history and sport lovers. 自然、歴史、スポーツ好きの方にピッタリの場所・経験だと思います。
8	It’s a precious experience to learn more about the aspects of Japanese life you usually don’t get in contact with. 普段触れることのない日本の生活を学ぶには、貴重な経験になると思います。
Q.　自由なコメントや感想	
1	I had a great time, homestay is a valuable experience for students who are only staying for a short time. I also particularly liked the fact that our host mother was also into art. Cycling on the second day was a nice and quiet activity after a lot of talking on day 1. 本当に楽しかった。短期滞在中の外国人留学生の場合特に、ホームステイは得がたい経験です。私たちのホストマザーは、アートに造詣が深かったのが印象的でした。2 日目のサイクリングは、初日の雰囲気と違ってまた別の良さがありました。
2	To me everything was perfect, not a single thing to complain about, everyone handled everything wonderfully, even my injury. 全てが完璧で、何ひとつ文句ありません。ちょっとケガしちゃいましたが、それでも最高でした。
3	Thank you for welcoming us and treating us so well! This became a valuable memory and now I have a lot of omiyage banashi! 温かくお迎えいただき、またお世話いただき、本当にありがとうございます。本当に貴重な経験ばかりで、たくさんのお土産話ができました。
4	I’ve had no negative experiences! This was the best tour Mizu has ever organized. 何ひとつ問題や文句はありません。これまでみずさんに誘っていただいたツアーの中で、最高のツアーだった。
5	It would be better to take tourists around by minivan, as it’s easy to get confused with train changes. 電車は乗り換えが分かりにくいので、ミニバン（車）で動いた方がいい。

（６）実施結果

（１）～（５）の結果を踏まえ、鉄道事業者、地域、観光客目線で本ツアーや、今後の外国人の利用促進を図る上での気づきを以下にまとめる。

■各主体目線での気づき等

鉄道事業者	・今回は、「鉄道」を観光コンテンツとして利用するというよりは、インバウンドの１次交通としての可能性を把握したものだが、鉄道に限って言えば課題は多かったと感じている ・主な課題として、1.基山駅での乗換の難しさ、2.運賃支払いの複雑さ、3.外国語表記の少なさ、4.運休や遅れへの対応の４点である
地域 （住民・行政）	・朝倉グリーンツーリズム協議会は、これまで教育旅行（小中学校の修学旅行）の誘致に力を入れてきたが、豪雨によるキャンセルが多く発生したため、外国人旅行者への対応を拡大しようと、外国語を学ぶ勉強会を重ねて今回のツアーを迎えることができた ・周到な準備と各家庭のホスピタリティにより、参加者に大変好評の企画となった ・また、家庭内だけでなく、観光協会と連携したサイクリング企画や甘木鉄道の利用とセットでコースを造成することで、地域としてよりお金を落としてもらう仕掛けをイメージすることができた
観光客	・単なるアクティビティの体験ではなく、ホストファミリーと1泊をともにする農家民泊というコンテンツは、各家庭のホスピタリティもあって、一気に距離を縮め、思い出深い記憶に残るものとなったようだ ・その結果、もう一度ホストファミリーに会いたい、また朝倉に来たいという思いを持ってもらうことができ、今後のインバウンドに光が見えた成果となった
成果	➲ これまで団体向けの観光バスや個人向けのレンタカーに頼ってきた地方部のインバウンドにおいて、地方鉄道を活用した来訪を促進するため、鉄道利用時のいくつかの課題が明確になったことは成果である ➲ それらの課題について、そのひとつずつを丁寧に解決していくことが求められる ➲ また、農家民泊のような地域の良さをじっくり届けられるツアーには、外国人の需要があり、今後も継続・拡大していくことが期待される ➲ 協議会という地域が主体となったモニターツアーには、試行によるノウハウの習得や人材の育成が進み、地域内に継続・発展していく力が蓄えられるため理想的なスキームとなった
課題	➲ 外国人の鉄道利用に関して、上記で４つの課題が明らかになったため、以下に詳細を記載する ➲ 1.基山駅での乗換の難しさについては、同一駅内での乗換とはいえ、階段を上がって一旦 JR の改札を出ること、その後の方向がわかりにくく、アテンドなしでは移動が不安なことが挙げられる ➲ また、福岡からのアクセスを考えた時、JR では基山駅、西鉄では小郡駅での乗換となるが、小郡駅では乗換に距離があるため、さらなる困難も考えられる ➲ 2.運賃の複雑さについては、JR と異なり後払いであること、降車駅によって料金が変わる電光掲示板の料金表の理解が困難であることが挙げられる ➲ なお、降車時の料金支払いに手間取ると、運転手がひとりで対応するため、列車運行そのものに影響する可能性があり、事前の丁寧なアナウンス、または外国人専用の定額きっぷの発売を検討してはどうか ➲ 3.外国語表記の少なさについては、乗換、運賃とも連動するが、駅でも車両内でも外国語の表記がほとんどないことが課題となっている ➲ 4.運休や遅れの対応については、今回実際に JR での人身事故により、大きな遅れが生じ、甘木鉄道の乗車が予定の１本後の列車になり、行程を遅らすことになったが、列車本数の少なさゆえに発生時のリカバリーのしにくさ、先方への連絡手段の確保などが課題となる

６．実証実験の効果検証

（１）４事業の結果とりまとめ

	平成筑豊鉄道株式会社		甘木鉄道株式会社		まとめ
	平成筑豊鉄道×フォトツーリズム 視点採集「平成筑豊鉄道」編	平成筑豊鉄道×インバウンド ローカルエクスペリエンスツアー	甘木鉄道×婚活イベント 夫婦くすのき参り❤あまてつコン	甘木鉄道×インバウンド 農泊体験ツアー	
鉄道 事業者	・「鉄道」と「フォトツーリズム」を組み合わせることで、これまで平成筑豊鉄道に乗ったことのないターゲットへの需要喚起ができる ・観光客にとっては、列車内での車掌マイクを活用したプレゼンや車掌との触れ合い、列車で観光するという「既にある資源」を活用するだけでも、その体験に希少価値を高めることにつながった ・貸切バスによるツアーだけでなく、個人旅行客をターゲットとした企画の実施の可能性があることが分かった ・鉄道と他の交通機関（高速バス等）と組み合わせることで、参加者のアクセスにかかる負担を小さくすることができる	・今回は福岡県地域鉄道活性化推進協議会から鉄道会社に事前に依頼し、１日乗り放題きっぷを提供していただいたため、それを使うことでスムーズな旅となった ・なお、帰りは団体行動ではなく、個人個人が最寄り駅で降りることになり、降車の際に車両前方しか扉が開かず降りられなくなりそうな参加者が出るなど、外国人にとって乗降ルールはわかりにくいようだ ・油須原駅は駅舎自体が観光的価値、崎山駅は林龍平酒造場までの地域の風景、源じいの森駅は観光施設と隣接、鉄道からの眺めは里山風景が好評など、その観光の利便性や鉄道を使った観光プログラムの作りやすさを改めて実感することとなった	・甘木鉄道が位置する福岡県南地域は、博多エリアはもとより近隣市町村から比較的アクセスが良いため、集客を行う上で強みとなる ・甘木鉄道の運営に詳しいスタッフが、当日の専用車両の運行に同行したため、他の乗客の乗降りがスムーズにできた ・甘木鉄道の協力により、既存車両に連結して貸し切り列車を運行することができたため、既存ダイヤを変えずとも実施可能な企画であることが分かった ・鉄道の運行のダイヤが決められているため、甘木駅から小郡駅までのトイレ休憩の時間を確保することが難しかった ・乗車時間が短かったため、乗車中は自己紹介の時間にあてたので、車窓からの眺めを楽しむ時間がなかった	・今回は、「鉄道」を観光コンテンツとして利用するというよりは、インバウンドの1次交通としての可能性を把握したものだが、鉄道に限って言えば課題は多かったと感じている ・主な課題として、1. 基山駅での乗換の難しさ、2. 運賃支払いの複雑さ、3. 外国語表記の少なさ、4. 運休や遅れへの対応の4点である	➲ インバウンドや写真好き等の新たなツアー企画の造成により、新たな需要を鉄道に呼び込むことができた ➲ 観光客にとっては、運賃支払いや乗換、外国人にとっては外国語表記が少ない等、鉄道利用へのハードルが思いのほか高い ➲ 既存のツール（1日乗り放題きっぷ等）と組み合わせたツアーを行うことで、運賃支払いの手間がなくなる等、利用者の利便性を高めた ➲ 列車内での観光体験等が観光客にとっては価値があるものであり、列車活用の意義は高い ➲ 鉄道事業者にとっては、既存の資源（列車、駅舎）を活用することで、コストをかけずとも、価値ある体験を提供できる
地域 （住民・ 行政）	・地域側が特別にサービスを提供しない場合でも、地域の特産品や地域の人々のありのままの暮らし方、ふれあいを行うことにより参加者満足度を高める事ができる ・特に地域の人やその人の想いのこもった特産品に触れることが、その地域でしかできない体験となり、特産品を購入する等で、地域にお金を落とすきっかけづくりを行うことができた ・鉄道は複数市町村に跨るため、普段から鉄道事業者と地域（住民・行政等）が連携し、両者の取組みに関して共有できる機会が求められている（両者の取組みを知ることで、互いに課題や展開方法を見つけるきっかけとなり、取組みが継続していく可能性がある）	・油須原駅での赤村役場職員のガイド、源じいの森でのキャンプ場等の散策アテンド、陶芸体験での指導インストラクター、林龍平酒造場でのオーナーのガイドなど、丁寧な解説とおもてなしが好評だった ・また、源じいの森のスタッフが、油須原駅までバンで送迎をしてくれたことで、本数が少ない鉄道であっても、待ち時間を減らして観光が効率的にできる配慮をいただいた ・その一方で、少し英語を話すことができる源じいの森の地域おこし協力隊スタッフ以外には、英語が話せるスタッフがおらず、外国語への対応や言葉が話せなくてもコミュニケーションがとれる手法を学んでいく必要がある	・須賀神社と安長寺の歴史についてのガイドではなく、須賀神社の縁起物の話や、須賀神社のパワースポットなど婚活に関係のあるガイドが参加者に好評であった ・これまで交流の無かった地域のプレーヤー同士が婚活イベントを介して知り合うきっかけとなった ・地域の店舗と連携したイベントで、事前に店舗側にも協力を依頼していたが、店員が実施していることを知らなかった ・店舗側は来客が増えることは歓迎しており、連携を強化することで、より積極的なおもてなしができる可能性がある ・地域が見せたい資源と観光客が見たい資源や聞きたい話にはギャップがあることを認識することができた	・朝倉グリーンツーリズム協議会は、これまで教育旅行（小中学校の修学旅行）の誘致に力を入れてきたが、豪雨によるキャンセルが多く発生したため、外国人旅行者への対応を拡大しようと、外国語を学ぶ勉強会を重ねて今回のツアーを迎えることができた ・周到な準備と各家庭のホスピタリティにより、参加者に大変好評の企画となった ・また、家庭内だけでなく、観光協会と連携したサイクリング企画や甘木鉄道の利用とセットでコースを造成することで、地域としてよりお金を落としてもらう仕掛けをイメージすることができた	➲ スタッフやボランティアガイド等からのおもてなしやそこでしか聞けない話や場所へのガイドが、より満足度を高めた ➲ ただし、地域が見せたいものと観光客が見たいものにはギャップがある ➲ 市町村ごとの観光受入れ等に対する温度差を解消することが、地域一体的な連携体制を構築するための第一歩となる ➲ 列車や地域資源という地域が既にもっているものを組み合わせることで、新たな価値を生み出し、そこに投資する（ = お金を落とす）ニーズは高い
観光客	・普段できない、その地域でしかできない体験を求めており、その地域のありのままの風景や地元の人との会話といった地域側との触れ合いが好まれていることが分かった ・列車に乗るという体験自体が、これまで経験したことがないという観光客も多く、それが希少価値を高め、満足度向上につながっている ・ツアーターゲット（今回は、写真が好きな人）を絞り込み、そのターゲットに的確に情報発信を行うことが、よりツアーの質や参加者満足度を高めることが分かった	・近隣に勤務するALTを対象にツアーを行ったことで、平成筑豊鉄道に乗る機会を提供できたことや、今後の沿線地域への来訪促進や友人への情報発信の起点になったことは成果だった ・特に、林龍平酒造場での日本酒の試飲体験は好評だった ・酒蔵見学や油須原駅の駅舎のガイドに関しては、専門的な用語やその歴史を正しく伝える必要があるため、英語の通訳が必要だった	・参加者は、地域の魅力を知ることのできるイベントを好む傾向にある ・蒸し雑煮など、地域特有のものは参加者も興味を示すため、わかりやすく伝えることが必要 ・参加者は3,000円程度の参加費だと、手頃なので参加してみたいと感じている ・参加者は、婚活に来ているのであって、甘木に来ているわけではないため、参加者の好みそうなルート設定を行うか、地域の魅力を効果的に伝える工夫が必要 ・協力を呼びかけた店舗以外にも参加者が興味を持った店舗があったため、地域の魅力の掘り起こしの可能性がある ・婚活というコンテンツによって、北九州市など遠方からの集客が可能となった	・単なるアクティビティの体験ではなく、ホストファミリーと１泊をともにする農家民泊というコンテンツは、各家庭のホスピタリティもあって、一気に距離を縮め、思い出深い記憶に残るものとなったようだ ・その結果、もう1度ホストファミリーに会いたい、また朝倉に来たいという思いを持ってもらうことができ、今後のインバウンドに光が見えた成果となった	➲ 列車に乗る体験ということ自体が、観光としての希少価値を高める可能性がある ➲ 列車に乗り、鉄道沿線を巡ることで、普段行くことが難しい場所や、普段味わうことのできない体験をすることで、観光満足度を高めることになった ➲ ツアーごとにターゲットを明確に絞り込み、ターゲットにあわせた情報発信による誘客やターゲットにあわせた受入れ体制を整えることが、観光満足度を高める可能性がある

	平成筑豊鉄道株式会社		甘木鉄道株式会社		まとめ
	平成筑豊鉄道×フォトツーリズム 視点採集「平成筑豊鉄道」編	平成筑豊鉄道×インバウンド ローカルエクスペリエンスツアー	甘木鉄道×婚活イベント 夫婦くすのき参り❤あまてつコン	甘木鉄道×インバウンド 農泊体験ツアー	
成果	・鉄道と他のコンテンツの組み合わせが、鉄道に新たな客層を引き込むきっかけとなる ・コンテンツにあわせたターゲット・マーケティングを行い、的確な情報発信・募集を行うことが、より企画の質を高める ・鉄道に乗るまでのアクセスは、他の交通モードとの組み合わせにより、利便性を高める可能性がある ・地域になるべく負担をかけず、「地域のありのまま」を巡るツアーも十分に需要がある	・1日乗り放題きっぷの使用は、料金がわかりにくい地域鉄道にあって非常に有効なツールである ・平成筑豊鉄道は、駅舎自体、駅周辺の観光施設、列車からの眺め、どれをとっても観光の価値は高いと感じる ・今回、ターゲットとして設定した欧米系の外国人を、まずALTで試験的に行ったことで実現できたことはひとつの成果である ・特にでき立ての新酒の原酒を樽から直接汲んで飲む体験は好評で、ほかの地域では、また、いまの時期にしかできない体験には価値があると感じた ・そういった貴重な体験により、お土産の購入や再訪意向にもつながったと考えられる	・婚活というコンテンツによって、これまで、甘木鉄道やその沿線に訪れたことのない人、鉄道や甘木に興味のない人をターゲットとして呼び込むことができる ・貸し切り列車や乗車までのサポートなど、取組みに合わせたサポートができた。鉄道事業者の協力は不可欠である ・地域の店舗やガイドと連携して実施することで、蒸し雑煮など地域の魅力を伝えることができ、参加者にもここでしかできない体験は効果的なことがわかった ・鉄道事業者を含め地域のプレイヤーが目的を共有し、取組むことで、おもてなしの質の向上や効果的な取組みの実施につながる可能性があるため、一同に会する機会や場の設定が必要である ・団体ツアーを実施する場合は、スケジュールがずれこむ可能性を念入りに検討する必要がある	・これまで団体向けの観光バスや個人向けのレンタカーに頼ってきた地方部のインバウンドにおいて、地域鉄道を活用した来訪を促進するため、鉄道利用時のいくつかの課題が明確になったことは成果である ・それらの課題について、その1つずつを丁寧に解決していくことが求められる ・また、農家民泊のような地域の良さをじっくり届けられるツアーには、外国人の需要があり、今後も継続・拡大していくことが期待される ・協議会という地域が主体となったモニターツアーには、試行によるノウハウの習得や人材の育成が進み、地域内に継続・発展していく力が蓄えられるため理想的なスキームとなった	➲ 新たな観光客の需要喚起に繋がった ➲ ターゲットのニーズに合わせた体験や地域ならではの体験が観光満足度や再訪意向を高める可能性がある ➲ 観光バスやレンタカー等に頼らなくてもできる個人客向け（FIT）ツアーの企画の可能性も少なくない ➲ 継続的に地域が観光客を受け入れるために、受入団体側のノウハウ習得や人材育成等を地域一体的に行うことが継続した取組み実施の鍵となる
課題	・平成筑豊鉄道沿線に来訪する際には、福岡都市圏からでも鉄道を乗継ぎ、1時間半程度が必要であり、アクセスが悪い ・鉄道以外の他の交通機関（高速バス等）と連携し、観光客のアクセスの利便性を高める必要がある ・「写真好き」というターゲットを引き込むことのできる可能性はあるものの、写真」好きというコアターゲットが鉄道や沿線のファンになってもらうことのできる仕掛け（撮影した写真を油須原駅で写真展を行う等）を検討する必要がある ・鉄道事業者だけではなく、沿線市町村と連携した取組みを行うことで、巡る場所の幅が広がり、受入れ体制がより強化される可能性がある	・源じいの森以外は、外国語に対応するため通訳ガイドの必要があると感じた ・アルコールに関しては、宗教や体質もあるため、ツアーの際には事前にアルコールが飲めるのかの確認は必要である ・陶芸体験も好評ではあったが、焼きあがった後日に個々に配送する手間を考えると、インバウンドで体験を提供する難しさがあると感じた ・例えば、その場で持ち帰ることができる手土産があるほうが、満足度を高めるのかもしれない	・地域が持っている「価値」を洗い出し、それを観光に繋げるための資源の磨き上げが必要である ・必要経費分の利益しか収入が得られない場合においても、事業実施の目的や実施していく上での問題・課題を共有し、それを次の企画に活かしていくことのできるプロセスをとることが必要である ・企画を進めていく上で、鉄道事業者や地域プレイヤーが連携することが重要であるため、イベントの企画・実施、その後の見直しというプロセスについて共通認識を持ちながら進めていく体制づくりが必要である	・外国人の鉄道利用に関して、上記で4つの課題が明らかになったため、以下に詳細を記載する ・1.基山駅での乗換の難しさについては、同一駅内での乗換とはいえ、階段を上がって一旦JRの改札を出ること、その後の方向がわかりにくく、アテンドなしでは移動が不安なことが挙げられる ・また、福岡からのアクセスを考えた時、JRでは基山駅、西鉄では小郡駅での乗換となるが、小郡駅では乗換に距離があるため、さらなる困難も考えられる ・2.運賃の複雑さについては、JRと異なり後払いであること、降車駅によって料金が変わる電光掲示板の料金表の理解が困難であることが挙げられる ・なお、降車時の料金支払いに手間取ると、運転手がひとりで対応するため、列車運行そのものに影響する可能性があり、事前の丁寧なアナウンスまたは外国人専用の定額きっぷの発売を検討してはどうか ・3.外国語表記の少なさについては、乗換、運賃とも連動するが、駅でも車両内でも外国語の表記がほとんどないことが課題となっている ・4.運休や遅れの対応については、今回実際にJRでの人身事故により、大きな遅れが生じ、甘木鉄道の乗車が予定の1本後の列車になり、行程を遅らすこととなったが、列車本数の少なさゆえに発生時のリカバリーのしにくさ、先方への連絡手段の確保などが課題となる	➲ 新たな客層（初めて乗車する観光客やインバウンド等）にとって、鉄道、特に地域鉄道の利用には大きなハードルがあるため、ハード・ソフト面から利用促進、利便性の向上につながる取組みが必要 ➲ ターゲットの絞り込みとそのターゲットにあわせた価値を的確に提供できる企画と地域側の受入れ体制の構築が必要 ➲ コアターゲットが鉄道や沿線地域のファンとなり、リピーターとなるための仕掛けを検討することが必要である ➲ 鉄道事業者や住民・行政といった地域側が一体となる場づくりと、企画等を継続的に実施していくための試行によるノウハウ習得や人材育成等の地域力を高める力の蓄積を進める必要がある

（２）実証・効果検証により得られた知見

（１）の結果を踏まえ、4 つの実証・効果検証で得られた知見を以下にまとめる。

（１） ターゲットを明確にし、そこに訴えかけるツアー企画や情報発信等が重要

【来てもらうきっかけづくりを行うこと】

- 4 つの実証・効果検証の結果から、婚活や写真好き、農家民泊、インバウンド等と鉄道観光を組み合わせることで、これまでに列車を活用したことのなかった潜在需要を引き出すことができた。
- 例えば、「平成筑豊鉄道×フォトツーリズム」や「甘木鉄道×婚活イベント」の企画では、8～9 割の人が鉄道をはじめて利用した人であり、そのうち約 4 割の人が本イベントをきっかけに鉄道の名前を知ったという結果となった。
- 潜在需要を引き出すためには、婚活や写真好き等のコアターゲットを明確化し、それぞれのターゲットのニーズを踏まえた企画の立案や情報発信による誘客戦略を検討することが必要となる。
- そうしたコアターゲットは、今後鉄道のファンやリピーターとして情報発信等を行ってくれる可能性も高いため、「鉄道として利用しやすい環境づくり」と「鉄道や地域ならではの観光体験の提供」を両輪で進めていく必要がある。

（２） 新たな客層が利用しやすい環境づくりを行うことが重要

【都市部の観光客も個人旅行の外国人も、誰でも使いやすい鉄道であること】

- 観光客が鉄道沿線まで来訪しても、1 度きりとなってしまっては意味がないため、観光客にいかに鉄道や沿線のファンになってもらい、かつ継続的に来てもらうことのできる環境づくりを行うことが重要である。
- 実証・効果検証の結果において、初めて鉄道を活用する観光客は、思いのほか鉄道利用にハードルを感じている（運賃の支払い、乗換え、外国語表記等）ことが把握でき、それがファンやリピーターにつながらない可能性がある示唆を得た。
- そうしたハードルを下げるために、1 日乗り放題きっぷ等の活用や、乗換時のアテンド、サイン整備という鉄道事業者側ができるハード・ソフト両面からの対策を検討することが必要となる。
- また、鉄道へのアクセス性の向上を図り、観光客の利便性を高めるために、鉄道だけではない他の交通機関（高速バス、レンタサイクル）と組み合わせたツアーの造成に関しても検討する必要がある。

（３） 鉄道や地域ならではの観光体験を提供することのできる体制づくりが重要

【地域の人たちが自らの活動として継続する理由、仕組みがあること】

- 鉄道における利便性を向上させることとセットで、鉄道や地域ならではの観光体験を提供し、観光客の満足度を高めることも重要である。
- 実証・効果検証の結果において、車掌マイクでプレゼンをしたり、鉄道からしか見えない風景、行けない場所を巡る等の「鉄道ならでは」の体験やその「地域ならでは」の食を楽しんだり、地域の人との交流という体験が、より満足度を高めることが分かった。
- そのため、鉄道事業者のほか、地域プレイヤーと連携した受入れ体制を構築し、また継続した体制を構築するために、受入側の観光等のノウハウ蓄積や人材育成を一体的に行うことのできる場づくりが必要となる。

（４） 地域が「既に持っているもの（鉄道・地域資源等）」の組み合わせにより、地域一体で稼ぐ仕組みづくりが重要

【活動を継続するために、地域と連携しながら稼ぐ仕組みを検討すること】

- 本実証・効果検証を通じて、列車に乗るという体験自体が、観光の希少価値や地域が既に持っている資源を体験することが観光満足度を高めることが分かった。
- 観光といえども、単にコストをかけて観光メニューや受入れ体制を構築するのではなく、まず鉄道事業者や地域側が既に持っている資源を見直し、それをどのように活用していくかを考えることが必要であり、それらを活用すれば地域にお金が落ちる仕組みをつくることができるという認識を鉄道事業者側と地域側が共通して持つことが重要である。
- そうした認識を共通して持ちながら、「鉄道として利用しやすい環境づくり」と「鉄道や地域ならではの観光体験の提供」をセットで取組んでいく仕組みづくりを行うことが必要である。

第３章　今後の課題整理と展開について

１．今後の課題の整理

地域鉄道を活用し、地域参画型観光コンテンツの造成による地域の振興に向けた課題を、事例調査の結果及び実証・効果検証により得られた知見より、以下のように整理する。

■今後の課題の整理

事例調査に基づく振興のポイント	実証・効果検証により得られた知見	今後の課題
【①収支の確保】 初期投資をおさえ、企画の収支を確保することが重要	④地域が「既に持っているもの（鉄道・地域資源等）」の組み合わせにより、地域一体で稼ぐ仕組みづくりが重要 【活動を継続するために、地域と連携しながら稼ぐ仕組みを検討すること】	①初期投資おさえ、稼ぐしくみにつながる企画とすることが必要（最低でも赤字が出ないものとすること） ②収入を得るためには、どのような取組みが効果的か鉄道事業者や地域間で共有することが必要
【②戦略的な企画】 ターゲットに訴求できる企画を立案し、見直し、検証が重要	①ターゲットを明確にし、そこに訴えかけるツアー企画や情報発信等が重要 【来てもらうきっかけづくりを行うこと】	③ターゲット選定や具体的な企画など、鉄道事業者、地域等の企画力を向上させることが必要 ④情報発信ツールの作成や発信の場の設定が必要
	②新たな客層が利用しやすい環境づくりを行うことが重要 【都市部の観光客も個人旅行の外国人も、誰でも使いやすい鉄道であること】	⑤分かりやすく、使いやすい鉄道とするための案内サインシステムやパンフレット等のツールが必要
【③ねらい・効果の明確化】 何をねらうのか、どんな効果を期待するのか明確にしておくことが重要		⑥どのような効果をねらうために、何が効果的なのか共有が必要 ⑦地域参画型観光コンテンツの造成がどのような効果を生むか、共通認識が必要
【④体制の構築】 目的を共有し、協力者を得やすい取組みとすることが重要	③鉄道や地域ならではの観光体験を提供することのできる体制づくりが重要 【地域の人たちが自らの活動として継続する理由、仕組みがあること】	⑧鉄道事業者、地域、事業者、自治体等のマッチングが必要 ⑨体制に不足するスキルを補完する体制を積極的に構築することが必要

様々な課題があるが、これらをクリアしていくためには
①地域鉄道や駅に集まりたくなる、使いたくなる機能を持たせることが必要
②地域鉄道を地域資源として使いこなす意識へ転換することが必要
③取り組み、トライアンドエラーを続けるなか観光コンテンツを充実させていくことが必要

2．事業主体別の取組み例について

前項の課題の整理に基づき、事業主体別の取組み例について、そのいくつかを以下のとおり例示する。事業主体は鉄道事業者、地域（地元企業などを含む）及び沿線自治体を想定して整理を行った。

今後の課題	事業主体別の取組み例	鉄道事業者	地域	沿線自治体
①初期投資おさえ、稼ぐしくみにつながる企画とすることが必要（最低でも赤字が出ないものとすること） ②収入を得るためには、どのような取組が効果的か鉄道事業者や地域間で共有することが必要		➲遊休車両や既存の駅舎などを活用したお金のかからない企画づくり	➲地域の特産品や農産物など、その地域にしかない地域資源を活用し、対価を得る取組み	➲補助金やふるさと納税など、経済的に支援する取組み
		➲クラウドファディングなど、賛同する人が参加しやすい企画づくり ➲関わる主体がお互いにメリットのある体制づくり		
③ターゲット選定や具体の企画など、鉄道事業者、地域等の企画力を向上させることが必要 ④情報発信ツールの作成や発信の場の設定が必要		➲写真や婚活など新しいコンテンツを使った、新規の顧客を掘り起こす企画づくり	➲子供向けの企画とすることで参加者を増やすなど、明確なターゲット設定を持った企画づくり	➲鉄道沿線自治体の連携による、地域資源を組み合わせた魅力的な企画づくり
		➲企画を実施後、検証し改善する PDCA の仕組みづくり ➲地域が見せたいものを観光客にみたいと思わせる見せ方や企画の工夫 ➲ターゲットに訴求できる戦略的な情報発信		
⑤分かりやすく使いやすい鉄道とするための案内サインシステムやパンフレット等のツールが必要		➲1 日乗り放題切符など観光客が地域鉄道を使いやすくする取組み ➲ピクトグラムの活用など、外国人旅行者にとって分かりやすいサインの整備	-	➲沿線自治体で統一したサイン整備やパンフレット等の作成
⑥どのような効果をねらうために何が効果的なのか共有が必要 ⑦地域参画型観光コンテンツの造成がどのような効果を生むか共通認識が必要		➲電車利用を促進する企画づくり ➲乗客数のアップだけでなく、CSR や PR 活動に繋げる取組み	➲観光地の閑散期の集客など、鉄道を使って地域の課題を解決する取組み	➲協力体制のなかで手薄になっている部分を補完する取組み（広報活動が不足している場合は、告知に協力をするなど）
		➲関わる主体が共感し共有できるコンセプトや目的を共有した取組み ➲関わる主体がお互いに無理をしないで出来る取組み		
⑧鉄道事業者、地域、事業者、自治体等のマッチングが必要 ⑨体制に不足するスキルを補完する体制を積極的に構築することが必要		➲企画の中で苦手な部分を洗い出し、それを補完してくれるパートナーづくり	➲自治会や商工会など地域のネットワークを生かした体制づくり	➲自治体の枠を超えた事業者や地域を巻込む体制づくり
		➲関わる主体が一同に会し、情報共有や交流をする場づくり		

■九州内で成功事例を創出するための施策

■事例から得られる経験則を活かして九州の地域鉄道の底上げを図る施策

3．今後の施策展開について

前項の課題の整理に基づき、九州運輸局や沿線自治体における今後の施策展開として「九州内で成功事例を創出するための施策」と「事例から得られる経験則を活かして九州の地域鉄道の底上げを図る施策」が考えられるため、そのいくつかを以下のとおり例示する。

◆九州における地域鉄道の成功モデル創出支援事業
・本業務「地域鉄道を活用した地域参画型観光コンテンツの振興に関する調査・検証業務」と同様の業務を組成し、次回は時間的にも多少の余裕を持って、地域内での合意形成支援までを含んだ実証・効果検証事業として、九州内の複数の地域鉄道を支援するスキームを構築する。

◆観光コンテンツ造成のための鉄×民マッチング事業
・地域の民間事業者が提供できるキーコンテンツと、鉄道事業者のニーズをマッチングする場が求められている。そのため、民間事業者と鉄道事業者の出会いの場を創出するとともに、連携事業のコーディネートに関して支援を行う。

◆沿線自治体での鉄道資源活型アイデアソン事業
・沿線自治体の行政関係者を集めて、「乗って残そう」に加えて「活用して豊かになる」ための知恵出しを行うことで、自治体間の温度差を減らし、目的を共有して一体的な活動ができるような素地づくりを行うとともに、良質なアイデアを地域間連携によって実現支援する。

◆鉄道関係者が一堂に集う九州地域鉄道サミット
・サミットを立ち上げて、各鉄道事業者と沿線の地域関係者が集い、成功事例の発表やお互いの活動紹介などを行う。また、座学だけでなく、成功事例の現場を参加者が直接見られるように、サミットの会場は、毎年地域鉄道の立地地域で持ち回り開催するなどの工夫を施す。

◆大学対抗の地域鉄道ハッカソン事業（またはローカルレールインターンシップ事業）
・各県の地域鉄道と各県の大学が 1 対 1 でコラボをして、地域鉄道の課題を踏まえた今後の観光コンテンツの造成プランを練り上げ、プレゼンテーションし、審査員や SNS での投票を交えた審査によって最優秀プランを決めるハッカソン事業を企画する。

◆頑張る鉄道、沿線の情報メディア「鉄系ポータルサイト」の構築
・鉄道やその沿線観光情報、イベント情報というありふれた情報だけでなく、そこで「頑張る人」や「沿線で暮らす人」「沿線ならではの資源」にフォーカスする情報メディアを構築する。まず九州にある 10 の地域鉄道を対象に、鉄道事業者、沿線自治体、沿線住民の声をインタビュー形式で収集する。そうして形成された情報や事業者等とのつながりをプラットフォーム化する「連鎖型課題解決メディア」として企画・運営を行う。

◆駅の新たな役割を見出す「駅の駅」支援事業
・「乗って守ろう」の限界に達した地域鉄道ではあるが、地域のシンボルとして鉄道や駅は重要な位置づけにあり、人々が利用する機能を付加することで、地域や観光の拠点となることが期待できる。事例調査で取り上げた採銅所駅のように駅に新たな機能を付加し、地域と連携して運営を行う取り組みを支援する。

◆地域鉄道の魅力を発信する「鉄分の日」開催事業
・鉄道の日である 10 月 14 日は全国各地の鉄道で、イベントが開催されている。地域鉄道の魅力を発信する日として「鉄分の日」を制定し、鉄道マニア（鉄）が自ら企画するイベントや、九州地域鉄道サミットなど、参加型の地域鉄道のＰＲを目的とした取組を行う。

４．地域が豊かになる鉄道との関わり方について

これまで地域参画型の観光コンテンツとして、どのようなモデルがあるか、そのポイントは何かなど整理してきたが、最後に少し視点を変えて、地域を主語に鉄道の関係の築き方によって、いかに地域が豊かになるのか、という視点で以下のようにポイントを整理する。

■移動手段を超えた地域のなかで新たな機能を

- 「舞妓ランチ・カフェ列車（長良川鉄道）」や実証で取組んだ婚活、写真といった「○○×列車」のキーコンテンツを中核に据えた企画には、訴求力があるため遠方からでも集客が図られ、大きな初期投資がなくとも事業として成立する可能性が高いことがわかった。
- また、「採銅所駅第 2 待合室（JR 日田彦山線）」では、移住の相談窓口や地域おこし協力隊の活動拠点として、従来の駅にはなかった新たな機能を付加することで、地域における駅の役割を提案した。他方、「えびの駅前広場納涼ビアガーデン（JR 吉都線）」では、地域住民の夏の楽しみを 100 年以上の歴史を持つ駅舎の広場に設け、その昔、暮らしの真ん中にあった駅に、もう一度地域の人が集まることで、機能の復興を目指していると捉えている。
- このように、鉄道は単なる移動手段という役割を超えて、車両で過ごす時間を魅力的な観光コンテンツに変えることや、駅が果たす役割に新たな光を当てることができるなど、地域のなかで経済や交流の面から大きな効果を発揮する可能性が見いだされた。

■地域のスタンスが変わることで、もっと地域は豊かに

- 「カープ油津駅（JR 日南線）」では、鉄道事業者が地域側を巻き込むというよりも、50 年以上も広島東洋カープのキャンプ地であるという特長を活かして、地域が鉄道を使ってファンを誘客し、周辺商店街と連携した取組みの展開で、地域が潤うことを目指したものになっている。
- 見方を変えると、駅舎や駅前広場、車両、さらには鉄道路線そのものを地域資源の 1 つと捉え、住民や活動団体、民間事業者が、他の地域資源と組み合わせて商品やサービスを造成し、いかに稼ぐのかを考えることにより、地域への波及効果をさらに高めていくことができると推察される。
- つまり、鉄道に対して「乗って守ろう」よりも、「使って豊かに」というスタンスに立った瞬間、鉄道は地域の経済や沿線住民の交流を生み出す地域活性化の舞台装置になり得ると言える。
- また、「甘木鉄道を育てる会（甘木鉄道）」では、任意団体でありながら、地域の利用者が中心となって、利用を促進する企画やイベントを次々と展開している。そのような地域と鉄道との付き合い方が、今後はさらに求められるのではないか。

■目指すところを決めたら、あとは楽しみながらトライ＆エラーを繰り返すこと

- 地域ではじめた活動や事業が継続・発展するためには、まず関わる人たちが楽しむことが大切なことである。そのためには、最初に大きな投資をするよりも、今できる行動に目を向けて活動を積み重ねていくとともに、小さな失敗を糧に常に軌道修正していく過程がポイントになる。
- 「列車運転試乗体験（平成筑豊鉄道）」でも、当初想定したターゲットから実際にやってみると異なるターゲットに向いていることがわかり、PDCA を回しながら適応していくことで継続した事業になっている。まず、小さく始めること、そしてやりながら変えていくことが鍵になる。
- 最後に、「甘木鉄道を育てる会（甘木鉄道）」では、会が主体となって活性化戦略を策定することや会則で会の目的を定めるなど、何のために取組むのかの目的や関係者で目指す方向性を合意して活動を進めていることも、長く活動を進めていくうえで非常に重要な視点である。